

北東アジアの開発金融協力

—開発銀行構想と政府系・民間金融機関金融協力を巡って—

千葉 康弘 ychiba@akeihou-u.ac.jp

(秋田経済法科大学 経済学部)

はじめに—研究動向：寸描—

2005 年 12 月、韓国ソウルで開催の二つの北東アジア開発金融セミナーが開催された。一つは韓国大統領府諮問「北東アジア時代委員会」と米国ハワイにある北東アジア経済フォーラム共催の特別セミナー「北東アジアの地域協力ビジョン」‘Seminar on A Vision for Regional Cooperation in Northeast Asia’もう一つは韓国政府支援で韓国の代表的研究機関が集まったの「繁栄と協力への道：北東アジア金融ハブ構想」‘Road to Prosperity and Cooperation: Financial Hub in Northeast Asia’の国際会議であった。また、2006 年 9 月ロシア・ハバロフスクで第 15 回北東アジア経済フォーラムが開催され開発金融セッション‘Panel Discussion on the Northeast Asian Development Bank’が開設された。(注1) これらの近時に北東アジアで開催された国際会議での研究動向を通して、北東アジア地域における地域金融協力の現況を紹介し、今学会の共通論題「東アジア経済統合：課題と展望」(注2) の関連報告にしたい。(注3)

1. 分析視角

北東アジア地域における開発金融協力は東南アジアの開発金融協力の状況と比べ動きが鈍い。アジアの金融協力は 1997 年のアジア金融危機を背景に急速に高まり、チェンマイ合意等の金融面からの協力体制を生み出した。しかし、北東アジア（ここでは 6 ヶ国：日本、韓国、北朝鮮、モンゴルの 4 ヶ国と中国東北地域、極東ロシアの 2 地域）では金融協力の体制の構築は依然として議論の段階にとどまっている。金融協力を具現化した図們江開発計画も縮小せざるをえない状況である。

多国間金融協力の金融機関としての北東アジア開発銀行（以下、NEADB とする）創設を巡る論議は北東アジア経済圏構想と同時に 15 有余年経過している。北東アジアの開発にとって開発金融スキームの構築は長い間の懸案事項となっている。本報告では NEADB 設立構想を再吟味し、また、新しい動きである日中韓の政府系・民間金融機関が関わる 2 つの金融協力の取り組み等を照射し、マルチラテラル・アプローチによる北東アジアにおける開発金融支援ネットワークの構築を提案する。それは国際金融資本市場或いは域内金融資本市場からの資金が北東アジアへ還流する金融協力の枠組みづくりの提案である。

日中韓 3 ヶ国間首脳会議等にみられるように、近年の多国間経済協力関係が深化しつつある北東アジア地域における開発面での金融協力の方向性を再考察する。

II. NEADB 設立構想の再吟味と域内金融協力の動向

1. NEADB 設立構想の再吟味

(1) 設立構想の経緯とその論点

NEADB 構想は北東アジアの金融協力の象徴としてまた、開発金融のスキームづくりの有効な選択肢の一つとして登城した。その経緯について概略的区分をすると、おおよそ 91 年の構想への問題提起を境に、NEADB 構想前史、構想初期→構想発展期→構想熟成期→構想確立期（→基本計画から実施計画へ）…の方向性を取りながら進展しているといえよう。資料 1 で明示したように開銀構想は 1991 年に北東アジア経済フォーラムで韓国元総理、南憲祐と中国國務院発展研究センター主任、馬洪らにより最初の提案がなされてその後、93 年に NEADB 構想についての最初の研究報告が、また 97 年には現在の構想の基となるスタンリー・カット（元アジア開発銀行副総裁）の NEADB 設立案（注4）が発表された。また、2002 年には東京財団 NEADB 研究プロジェクト・チームの『研究報告書』と『NEADB 創設に向けての政策提言』以下、TF 案（注5）が日本の視点からの構想として発表された。TF 案は

現実適用性の観点からカツ案が検討されたものである。カツ自身も2001年「北東アジア開発銀行設立円卓会議」等以降に修正案が検討されている。また、南恵祐がカツ案の補足・修正版(1999)として検討された。中国ではNEADBの拡充・代替案として南開大学馬君潞(経済学院金融系教授)「東北アジア銀行構想」(2005)が提案検討がなされ、又、韓国では李載民(韓国輸出入銀行海外経済研究所長)が「北東アジア協力基金」(NEACF)構想をNEADB設立の前段階の戦略的取り組みとして提案されている。(注6)

この構想を巡っての賛否両論がある。その金融機能の必要性について異論は少ない。

北東アジア地域の開発を進めるための資金調達スキームとしては、同構想の他に、既存スキームである二国間のODA(政府開発援助)の活用、既存の国際金融機関、特にADBの強化や特定基金の設置、UNDP 図們江開発事務局が提案した図們江地域開発基金、及び北東アジア・図們江投資会社の構想それに北東アジアの新設国際機関に資金協力の機能を併せ持たせるスキームなど様々な構想が提起されている。筆者は2002年日本国際経済学会でNEADBの意義と課題を踏まえてこれらの諸案を含め北東アジア地域の開発金融調達のファシリティの必要性に対する具体的な論点整理を試みた。論点項目を掲げ、その後の変化なども含めレビューしておこう。(注7)

1. NEADB 設立構想の必要性の可否についての論点
2. 懐疑論・慎重論
3. 推進論・積極論
4. NEADB 創設の条件と時期についての論点
5. NEADB 構想の内容に関する論点 —基本的性格、組織形態と資金調達—
6. NEADB を取巻く環境に対する論点
7. 各国政府の取組みとその論点

1. につき、NEADBは必要なのか否か、なぜ必要かについて議論は新しい開発銀行の成否を決めるカギであり、関係諸国や国際機関に理解されるための根本的な論点である。構想初期の段階からの論点である。それについての検討は北東アジア経済フォーラム等での議論を通して整理することが出来る。推進論・積極論の論拠からその必要性を簡単に整理してみよう。

(1) NEADB 構想の必要性の起因

NEADB 構想の必要性は開発資金の必要性から始まっている。時系列的には北東アジア地域協力において、かつてその中核となっていた図們江地域の多国間開発計画において約300億ドルの開発資金が必要とされた事が直接的起因となっているといえよう。1991年の国連開発計画(UNDP)の図們江デルタ地域調査レポートでそれが示された。その後、図們江地域開発計画も含めた北東アジア地域開発の主なインフラ整備プロジェクトに関する資金需要量に関する研究がなされその手段としてのNEADB設立の必要性への議論となっていくことがその起因といえよう。NEADB構想の前史及び前期に多出した論点である。

(2) 資金需要の観点からの理論的裏付けの要請と需要量の見直し

1993年の韓国龍坪第4回北東アジア経済フォーラムで、B.キャンベルと嘉数啓とがそれぞれNEADB設立の必要性についての理論的裏付けと資金需要に関する予測と出資額の配分、組織及び運営などについてのADBを事例に論じている。95年の第5回NEAEF(新潟)で資金需要が公表された。この研究を受け継いだ形で、S.カツ(当時NEAEF上級客員研究員)が北東アジアインフラ整備の資金需要および開発銀行の具体的なビジョン造りに携わることになる。(注8)

カツ案によるNEADB構想では、その資金需要の試算がアジア通貨危機以前のデータを基にしており、国際開発金融機関からの融資見直しを含め、北東アジア地域の資金需要に関する試算の見直しが試みられている。(注9)

2の懐疑論・慎重論については、(1)既存の多国間開発金融機関活用論、(2)国際機関合理化論、(3)民間資金活用論等があり、現在も継続して論議されている。

(1)は既存の多国間開発金融機関を活用することが新しいNEADB設立するより現実的であるという主

張である。新しいNEADB 構想の提案に理解を示しながらも、その実現可能性については懐疑的であり、むしろ、ロシアや北朝鮮を ADB に加盟させることにより、ADB が多国間協力プロジェクトへ融資できるような環境を作るのが現実的であると指摘している。この種の論点は ADB 関係者のなかでは一般的な見解であると言えよう。その論拠は多様である。政治外交上の理由が大層を占めている。

(2) は既存の国際開発機関はその運営において必ずしも合理的ではなく、各国の批判を浴びており、国際機関の縮小論が取り沙汰されている時に、新しい開発機関を設立するのは「時代的流れに逆行する」という主張である。2002 年 4 月国連開発資金会議（メキシコ・モントレ）でも新たな組織を作ることなく既存の組織を最大限に有効利用することが重要、とのコミュニケ添付資料となっている。

(3) は世界経済のグローバル化と市場経済化が進むなかで、公的融資によるインフラ整備は限界にきており、民間資金を動員する PFI (Private Finance Initiative) や BOT (Build, Operate and Transfer) 方式を活用したインフラ整備が時代の流れに合致するという議論である。民間資金を活用するメリットとしては、アジア地域には民間資金が豊富で賦存していること、採算性があるプロジェクトの選定ができること、インフラ・プロジェクトにおいて公的機関の支援が得られることなどが取り上げられる。

3 の推進論・積極論については、南恵祐 (Duck-Woo Nam) と S. カッツの論点整理がわかりやすい。南は① 出資負担が問題にならないか②既存の開発銀行と重複しないか③ADB に東北アジア開発のための特別基金を設置すればどうか④日本とアメリカが参加するかどうか、の 4 点を指摘している。また、S. カッツは北東アジア経済フォーラムアンカレッジ会議でこれまでの NEADB 構想に対する論点を整理し、特に反対意見への反論の形でシナリオの見直しがなされている。

近年の NEAEF での報告は NEADB 設立の必要性および問題点の総括的分析にとどまっており目に見える進展は見られない。しかし、本部誘致の天津市の取り組みは天津市当局から積極的に主張されている。

7 の各国の取り組みについて、韓国は盧武鉉大統領が「東北アジア経済中心国家」建設の構想のなかには、NEADB 構想を推進することにより金融ハブを標榜し積極的な取り組みがなされている。中国では天津市等が誘致することを宣言し、積極的な取り組み行われているが中央政府の態度は必ずしも明確ではない。日本はアジア開発銀行 (ADB) があることを理由に、新しい国際開発金融機関の創設には消極的である。(資料 2 の北東アジア開発銀行構想参照)

(2) 段階論・アクションプログラム・代替案からの接近

以上の論点整理で見たように域内外の状況変化により NEADB 創設の諸条件も変化してきている。NEADB 創設を最優先課題としておきながらもそれを達成するための次善策が検討されてきている。それは現実的な必要性から取り組み、段階的に積み上げていく方式である。実現可能なアクションプラン及び代替案が検討されている。以下、若干の紹介をしておこう。

・ TF 案にみる段階論—NEADB 創設の行動計画 (アクションプログラム) —

TF 案は“議論から行動へ”の趣旨のもとに①「地方・民間・NGO レベル」(民間シンクタンク)、②「実務レベル」(政策当局と研究機関)、③「政策レベル」(閣僚会議)、④「政治レベル」(首脳会議)を区分整理し、下記の段階の道筋を提案している。

- ①ビッグバン (NEADB 発足) 時期の設定：戦略目標として目標年を設定
- ②合意形成期 (フェーズ I、日中韓先行型)：日中韓三カ国首脳会議で宣言、作業部会を立ち上げ非公式交渉に入る。
- ③ 発足推進期 (フェーズ II、域内貯蓄運用型)：発足準備委員会を立ち上げ、3カ国を中心に6カ国委

員会に発展させる。

- ④ 発展拡大期（フェーズⅢ、「域外」連携・実績評価型）：NEADBの創設と独自の運営、市場による評価、域内外フルメンバーの参加。

各々の段階で戦略の具体的方向性を掲げ戦略目標達成のベクトルを設定している。それは①戦略目標：2006年をビックバンの年に定めNEADB設立を目指す。②日中韓先行型戦略：3カ国の首脳レベルの対話が定着し、制度的な協力枠組み構築が進んでいる。実体経済の相互依存拡大と相互浸透。③域内貯蓄運用型戦略：世界一の域内貯蓄水準、外貨準備高水準。「域内資金循環システム」を構築。④民間・地方参画型戦略：NEA地域の特徴を鑑み、民間・地方・NGOなどの参画と役割を重視する戦略である。

以上のアクションプランは政策提言として同研究プロジェクトの報告書と共に、2002年7月に小泉首相宛で福田康夫官房長官（当時）に提出された。同年11月のASEANと日中韓3カ国首脳会合（プノンペン）においてNEADB創設に向けての共同宣言で日本がイニシアティブをとるよう、要望したのである。（注12）

・NEADBの段階別設立案

鄭承衍（仁荷大学教授）が「北東アジア開発銀行設立に関する一考察」のテーマのもとに環日本海学会第11回学術研究大会（2005.10）で発表した案である。最近の日中韓の政府系・民間金融機関が関わる2つの金融協力に着目し、こうした動きと既存の設立案に基づいてNEADBの段階別設立案を提示している。近年取り組まれている新しい金融協力に基づき韓国では北東アジア研究機関及び研究者の中で検討されている段階論である。TF案を設計的に分析し、現実的対応の段階論として有用である。

第1段階(2005～2010年)：基盤形成期

北東アジア開発金融協議体、北東アジアECA協議体→他の金融機関の参加を誘導→公共性の高いプロジェクトの発掘と共同融資

第2段階(2010～1025年)：政府合意期

日中韓の首脳会談においてNEADB設立の推進を宣言→利用して域外国の参加誘導→NEADB関連の資本規模・出資比率・組織等を決定

第3段階(2015年以降)：設立発展期

NEADBの設立と運営の開始→商業性の高いプロジェクトの発掘と融資→国際民間資本の導入を拡大。

・代替案からのアプローチ

李在雄（韓国・西江大学校客員教授、ソウル大学客員教授）はNEAEF長春会議（2001年）で「北東アジア開発銀行の資金調達のための代替案：民間資本市場を通しての株式資金調達」（A Design for Alternative Fund Raising of the NEADB: Equity Financing through the Private Capital Market）と題して発表した。李は提案されているようなNEADBの設立は難しいとの見解を示し、3つの代替案を提示した。一つはADBの中にスペシャルファンドの設置。二つには貧困国を対象に融資活動を行っている国際開発協会（IDA）の中に、北東アジアの一部の国を対象とした特別の仕組みを設けることである。3つ目は、民間市場での資金集めを目的とするNEADBファンドを作ることである。韓国で実績のあるコリアファンドを念頭に三番目の方法が提唱されている。（注14）

金仁哲（韓国通商学会会長）は「北東アジア開発銀行と北東アジア版マーシャルプラン」国際シンポジウム（韓国のハンギョレ新聞と東北亜平和センター共催・2002.2.14）で「ウィンウィン戦略としての東北亜平和銀行グループ構想」を提唱し、そのグループの傘下に「北東アジア開発銀行」、「北東アジア開発研究院」、「北東アジア金融公社」、「北東アジア対外支払準備基金」、「北東アジア援助機構」などを設立し、それぞれの機能を持たせる必要があると提案した。検討されるべき提案である。

2. 域内金融協力の動向

近年、日中韓の政府系・民間金融機関が関わる 2 つの金融協力の取り組みが行われてきている。一つは「北東アジア開発金融協議体 (Northeast Asia Development Financing Council : 以下 NADFC とする)」二つには「北東アジア ECA 協議体 (Northeast Asia ECA Summit : 以下、NAECA とする)」である。
(注15)

(1) 北東アジア開発金融協議体 (Northeast Asia Development Financing Council)

NADFC は日本のみずほ銀行と中国開発銀行、そして韓国産業銀行という、日本の大手民間銀行と韓国と中国の代表的な政府系開発銀行との協力関係である。2004年5月に同協議体を設立することで合意した。目的は北東アジアの有望な開発プロジェクトを発掘して共同で開発金融を提供していく計画である。(注16)

具体的計画としては、NADFC 会員銀行相互で事業情報の交換、共同事業開発、人的交流拡大等を通じ、緊密な協調関係を維持し、SOC 建設に従ったプロジェクトファイナンス等多様な分野の事業を発掘して共同で金融支援をする計画である。

事例として下記がある

① シンジケート・ローンの組成： (2004.10.27)

NADFC による Hyosung Spandex (広東省)、および他の 7 つの銀行から構成されたコンソーシアムのための 7 億ドルのシンジケート・ローンを組む。

② キンホタイヤ中国工場建設支援 (2005.10.20)

韓国産業銀行は、北東アジア開発金融協議体(NADFC)共同でキンホタイヤの中国工場建設プロジェクトに総 1 億 2200 万ドルを支援するシンジケートローンを組んだ。国際金融市場でドル (5400 万ドル) 及び元 (5 億 5000 万元) で提供することで、産業銀行を含む NADFC 会員だけではなく、中国建設銀行(CCB)、中国銀行(BOC)等、中国の大型金融機関が関与し、計 8 つの銀行が関与している。(注17)

③ 開城工業団地事業への参画 (2006.04.13)

韓国と北朝鮮の共同事業・開城工業地区へ進出することにより北東アジア金融協議体(NADFC)を活性化し、韓国政府の北東アジア金融ハブ推進をサポートしようとする戦略の一環としての取り組みである。

④ 北京構想を発表 (2006.06.01)

韓国産業銀行は国際投資銀行への業務拡充と同時に 北東アジア開発金融協議体(NADFC)を活性化することを狙い同構想を発表している。

(2) 北東アジア ECA 協議体 (Northeast Asia ECA Summit)

NAECA は日中韓における政府系の輸出金融機関 (Export Credit Agency、ECA) の間の金融協力である。2005 年 5 月に韓国輸出入銀行 (Korea Exim) と日本国際協力銀行 (JBIC)、中国輸出入銀行 (China Exim) の 3 行は「北東アジア ECA 協議体」を結成することで合意した。(注18) この協議体は北東アジアのインフラや社会資本整備のような公共性の高い開発プロジェクトを中心に、共同融資を行っていく計画で近い将来、ロシアの対外貿易銀行と北朝鮮の朝鮮貿易銀行も参加させることを意図した取り組みである。第 1 回日中韓輸出入銀行長会議が 2005 年 5 月に開催され下記の事項が取り決められた。

- ① 協調融資等を通じた金融協力：第 3 国プロジェクト共同進出時、
- ② 輸出金融関連重要論議の意見調整：OECD/WTO 等で論議に対応
- ③ プロジェクト支援時、環境審査技法に対する情報交換
- ④ 実務協議会、研修プログラム等を通じた人的交流拡大等の共同推進

北東アジア地域の大規模開発プロジェクト需要に備えた域内金融支援及び情報交換の組織体としての役割が期待されている。

以上のような2つの動きは、日中韓の代表的な政府系・民間銀行が関わっているという共通性を有しており、NEADB 設立の前段階の性格を持つものと評価される。今後の域内開発プロジェクトの発掘と共同融資において、これらの2つの協議体は既存の多国間開発金融機関（MDBs）及び NEADB と連携する補完型の金融協力の連携モデルとして期待されている。（図2参照）

III. 開発金融支援ネットワークの構築—NEADB 構想と開発ビジョンとの融合—

財源なくしていかなるビジョン・プロジェクトも達成できない。開発ビジョンなき投資は為されないうように、北東アジアへの投資が大きな収益をもたらす可能性を秘めていることを具体的な形で示す責務が NEADB 及び開発ビジョンの双方にある。北東アジアへの直接投資が進まない理由は、一つはこれまで北東アジア経済圏構築の戦略を目に見える形で示す“グランドデザイン”が存在しなかったこと、また、もう一つの理由は北東アジアの経済協力を進めていく上での最大の問題であるインフラ整備に供給するため資金づくりの包括的枠組みが北東アジアに存在しなかったことにもある。北東アジアの開発の全体最適化を図る為の開発金融のスキーム実現の為に解決せねばならぬ問題点も多い。特に、北朝鮮問題の存在は図們江開発計画に見られるように北東アジアの開発金融のスキームづくりに“政治的困難性”を提起している。ここでは開発ビジョンと融合する開発資金協力体制としての開発金融支援ネットワークの戦略的構築を検討する。

1. 政治・経済財としての NEADB

NEAEF が NEADB 構想を提示し、その後、東京財団 NEADB 研究チームが NEADB 案を発表するまで10数年経過している。論点整理をしながら明白になったことは NEADB が優れて“政治財”でもあることである。経済合理性のみで捉える経済財とは異なり政治の論理が優先する財（組織体）である。ADB の設立が国際政治のパワーポリテックスの中で成立したことを想起せざるを得ない。（注19）経済合理性が適用される経済財（経済組織）としての NEADB としてみた場合、北東アジアの豊かさの追求には NEADB 設立は不可避なものとして存在する。NEADB 設立の必要性に対しての否定論・慎重論及び肯定論・積極論は手法の相違はあれ、共に“北東アジアの豊かさ”の追求を論じている。絶対的否定論者を除き設立の“困難さ”を訴える論点がおおく存在している。それは効率論を除き“政治的困難さ”を背景にして主張する論点が多い。それだけに経済からの論理展開が必要となる。カッツ案は経済の側面からの論理展開である。具体的ビジョンとインフラ整備の資金需要に対する分析的提案である。来るべき時代を想定し、現段階で全て考える合理的課題が設定されていると言えよう。一方、TF 案はカッツ案に時間軸と3つの原理（市場原理、社会原理、国際原理）を挿入し、各国に配慮した案である。ADB の経験を反面教師にしながら政治財の側面から NEADB を見た場合、政治的枠組みの一環としての位置付けが必要となる。3つの原理を掲げて TF 案は加盟6ヶ国のコンセンサスを作り出す“啓蒙”案ともいえる。開発ビジョン『北東アジアのグランドデザイン』（注20）と共に今後の北東アジア経済圏構想を推進する両輪となりうるものである。その為の提案を以下に掲げる。

2. 北東アジアの地域金融協力スキーム—開発金融支援ネットワークの戦略的構築—

NEADB の主要な機能は開発資金の供給である。金融機関としての NEADB は慢性的資金不足地域におけるサブ・リージョナル開発金融機関としての構想である。NEADB は開発資金供給のため国際金融・資本市場に存在する不完全競争性を取り除くために信用の標準化と資金の標準化を行う。信用の標準化機能は貸し手の資金提供にともなう危険を除去あるいは軽減させる。資金の標準化機能は金融機関が供給者側、需要者側種々の性格の資金を集め、資金量等において両者の不一致を調整する機能を果たすことになる。経済財としての NEADB は金融機関の2つの標準化機能を活用し、北東アジア地域の金融問題を解決する有効な組織媒体として存在し、信用リスクを削減しかつ多様化するインフラ資金需要に対応する役割を演じよう。そのためには開発金融システムの面での相互利用を視野に入れた枠組みづくりが重要となる。北東アジア地域の体制整備（法律・税制の整備等）と NEADB 設立の包括的枠組みづくりである。具体的には政治合意形成のもと、IBRD、ADB、EBRD との連携、それに域内各国の開発金融機関（JBIC、KDB、CDB）及び開発金融協議体（NADFC）、輸出金融機関協議体（NACTA）等を巻きこむ開発金融支援ネットワークの

戦略的構築である。

これらは「北東アジア経済社会開発機構」の設立、それに「北東アジアにおける連携金融協力の確立」及び「北東アジア共生圏の構築」を中心に設計的提言として論じられる。(注21)

IV 提言

1. 北東アジアにおける連携金融協力の確立 (図1)

図1は北東アジアの資金調達のためのロードマップである。NEADB 設立の必要性を論じるための根拠となる設計図でもある。

北東アジアの開発のための途上地域は北朝鮮、モンゴル、中国東北三省それに内モンゴル自治区、極東ロシアである。世界に残された開発のフロンティア地域でもある。それぞれの地域には多様な資源が賦存している。自然資源、人文資源への潜在的な投資需要は無尽蔵に存在すると言っても過言でない。潜在需要を顕在需要にする輸送インフラ、エネルギーインフラ、電力インフラ、食糧インフラ、知的インフラの構築、特に輸送・エネルギーなどの越境インフラが必要とされている地域である。このような北東アジアのプロジェクト開発が本格化すれば、膨大な資金需要が発生する。

しかし、財源なくしていかなるビジョン・プロジェクトも達成できない。開発資金調達が北東アジア開発ビジョンの達成には不可避の存在として現れている。

現在、北東アジアの開発途上地域の金融・資本市場は未成熟である。絶対的資金不足地域でもある。しかし、日本、韓国それに中国沿海州、香港及び台湾の金融資本市場は世界の外貨準備のおおよそ 55.2% (2004 年末、2,124.9 億ドル) も保有している資金余剰地域として存在する。

北東アジアには資金余剰地域と資金不足地域が隣接して存在している。この資金の過不足を調整する機能の金融機関の必要性は他言をまたない。各国際金融機関と各国との有機的連携がこの図の中からも見いだすことが出来るであろう。共通の課題は国際的資金の仲介機能を果たす金融機関が存在していないこと。特に北朝鮮は世界銀行、アジア開発銀行への加盟も承認されていない。ロシアは ADB、中国は EBRD に加盟していない。このような現況の中で、NEADB は北東アジアの開発金融を取り扱うサブリージョナルな地域金融機関として資金と信用の 2 つの標準化機能を駆使し北東アジアにおける開発金融を「連携」して支援するカタリスト (触媒体) 的な役割を果たす唯一の金融機関として位置づけられる。

一方、近年の域内金融協力の NADFC と NAECA は国境を越えた域内金融機関間の連携である。各国間の開発金融及び輸出金融の業態別金融協力の具現でもある。NADFC はコマーシャルベース重視の金融協力を、NAECA はノンコマーシャルを含め公共性を重視する金融協力として具体的な取り組みが行われつつある。新たな資金ルートとして各国金融機関との連携を誘発させている。

図1は以上の状況を踏まえ、下記の事項が表現されている。

- ① 日中韓が連携国として ASEAN 諸国を巻き込み国家レベルの金融協力を誘導し、オーソライズする。
- ② ①から投資、融資、グラント (ODAG) 資金がグローバルレベルの世界銀行グループ、リジョナルレベルの国際地域開発金融機関グループの ADB、EBRD へ資金が手当てされる。それに国連の UNDP (United Nations Development Programme) による国際投資の為の事前調査と、開発資金に必要な状況の施策が行われる。
- ③ ②は資金需要に応じて投資・融資そして特別基金等の方式で途上国地域に資金が流入する。
- ④ 図の下段には連携金融協力を支える基盤組織として①②を補完するサブリージョナルな金融機関の北東アジア開発銀行、及び、プラットフォームとしての「北東アジア経済社会開発機構 (仮称)」の国際機関が構想される。

連携金融協力を支える北東アジア開発銀行の設立、及び金融機能の整備の為にしなければならない具体的な事項及びその手法の検討が今後のコンセンサスづくりには有効である。

具体的事項を以下に指摘しておこう。

- ① 北東アジア地域の資金流入の為の整備体制の検討：
簡素・透明・迅速・公平な行政サービス体制の確立
法律的整備、或いは税制の整備（税制面でのインセンティブの供与例えば民間資金を優遇する税制の導入等）
- ② 銀行制度・資本市場の整備
各国金融システムの確立及び資本市場の育成
- ③ NEADB の保証機能の検討
民間金融機関あるいは民間の資金が調達できるような資金フローの確立、
債権保証及び回収方法の明確化。
- ④ 商業ベースに乗りうる物件と商業ベースに乗り得ない物件とに対応する勘定体系の検討。
- ⑤ NEADB の資金調達・運用方法の検討
資金造出機関か資金吸収機関かの検討、公的金融機関か準商業的金融機関かの検討、融資基準の明確化。リスク管理、融資審査能力
- ⑥ 各国の財政当局が NEADB に対して資金をどの程度実際出せるのかどうかの検討
等である。

換言するなら NEADB の受け皿づくりの具体的検討である。①②は北東アジア地域の体制整備であり③～⑥は NEADB の設立の為の条件づくりであり、①②の支持要因である。これらを各国政府の利害を調整する政策パッケージとして検討することが必要となる。例えば、③について①②の整備が整って融資をする場合にこの北東アジアの地域におけるプロジェクトは期待される案件の必要とする資金が非常に大きい規模となる。公表されているプロジェクトでも、サハリンのガスのプロジェクト 250 億ドル、ヤクートの天然ガスで約 170 億ドル、図們江開発で 300 億ドル、合計概算でも 720 億ドル超える。近年の推計でも、北東アジアのエネルギー総投資は 800 億ドルから 830 億ドル、これに道路、通信を含めたインフラ需要は 1400 億ドル～1700 億ドル（注22）と、この開発資金需要額（時期 10 年間）は年間 161 億ドルと推計されている。（注23）

これらのプロジェクトに応じて NEADB 或いは基金なり、これだけが単独で資金の供給する機関（供給源）と言うことでは絶対量が不足していることは自明である。従って、この地域の持続的発展への仕組みづくりには民間の金融機関或いは民間の資金が調達できるような形にこの地域への資金フローを作りうるか否かが最重要項目となる。④についても一つの勘定で融資するのではなく商業ベースに乗りえない物件については援助的な低利で長期のものを出す勘定と逆に、商業ベースに乗り得る物件については市場金利が適用する勘定を持つような新しい金融機関の機能の検討も必要となる。

別言すれば、図 1 はこれから生ずる膨大な資金需要と既存の多様な資金供給を連結するための経済組織体としての連携金融協力の概念図でもある。

2. 北東アジア共生圏の構築（図 2）

図 2 は図 1 と共に北東アジアに“平和で豊かな”共生圏を創設するための見取り図でもある。北東アジア全体の最適行動を取るための信頼醸成構造図とも言える。圏域の目標を達成するための努力すべき理念図でもある。

信頼醸成の為には生存の脅威から人類を護るための「人間の安全保障」それらに付随する「食料」「エネルギー」の安全保障を共有することが“核”になる。これらを支えるには域内の構成メンバーである“北東アジア市民”である。構造図の外輪にある「北東アジア開発ビジョン」「北東アジア開発銀行構想」も、さらに包括的プラットフォームである「北東アジア経済社会開発機構」もこれらを支えるサポーターに過ぎない。この基本的考え方は「環境共生圏」の考え方から発している。国境を越えての地球環境問題ほど人々をして永続的な信頼醸成を生み出す行動に走らせるものはない。ここで取り上げている北東アジアの“共生圏”は経済的側面からの構築を意図している概念図である。ここで掲げている「日中韓トライアングル国際開発構想」は 2 つの概念図を実行可能なアクションプランとして止揚する考え方の提示である。第 1 フェーズとして日中韓システム、第 2 フェーズとしてロシアも加

え日中韓露システムそれに最終ランドとしての6ヶ国それぞれが”利“を生かした組織体としての検討が必要になるであろう。これらの組織が”政治財“に傾斜する捉え方でない政治経済財として経済協力を中心とする“協調的安全保障”(注24)の理念に基づき経済合理性の観点から検討されなければならない。

図2は以上の状況を踏まえ、下記の事項が表現されている。

- ① 目標は「北東アジアの安定と繁栄」である。目標達成のために心得なければならない各種手段及び構造が構想される。
- ② 中央に位置する「信頼醸成」が核である。人々が信頼醸成するための各要因は人間の安全保障、食糧の安全保障、エネルギーの安全保障等々の生活の安全保障である。
- ③ ②を支えるのが両翼にある北東アジア開発ビジョンとその為の財源処置機構である北東アジア開発銀行構想を中心とする資金協力体系である。
- ④ ①から③を安全確実に執行するプラットフォームが国際機関としての「北東アジア経済社会開発機構」である。
- ⑤ 信頼醸成の推進役は「NPO/NGO、市民連合」である。市民活動からの取り組みが信頼を醸成するための必要条件である。
- ⑥ 北東アジア開発銀行は北東アジア共生圏のための公共財である。図1の連携金融ネットワークの核になる経済組織である。マルチラテラル・アプローチによる経済協力の核でもある。
- ⑦ 北東アジアのビジョンは越境グランドデザインを中心として描かれる北東アジアの未来像をあらわす。
- ⑧ 開発ビジョンと北東アジア開発銀行構想との融合により域外各国からの積極的投融資の誘致を図る開発金融支援ネットワークの構築を狙いとする。
- ⑨ 協力推進組織(推進母体)としての「北東アジア経済社会開発機構」の役割…北東アジア経済社会開発機構において、3ヶ国がそれぞれ、マネタリーセクターの中で「分業」体制を取る仕組みづくりが北東アジアの開発ビジョンを実現するためには必要となる。何故なら北東アジア開発ビジョンはこれまで推計されてきたように民間資金のみでは実現できない膨大な資金需要を必要とするからである。公的資金投入が政策金融機関等を通して必要となる。又、一方、少なくとも日中韓の三カ国において、北東アジア投資に対する政策調整も必要となる。金融政策の分業体制もその政策調整の一つとして登城する。この分業の結果、図1で示した開発機能、金融機能それに経済社会安定機能、という新しい機能が有機的に連携することになる。金融連携は実物経済の連携と異なり、その連携の度合いはスピーデーで補完型、共同型、拠点型、融合型と多様な連携を選択することが可能である。このような状況の中で北東アジア開発銀行は包括的プラットフォーム『北東アジア経済社会開発機構』の主要な一部として機能することになる。

注

注1 アジェンダは以下である。筆者の参加した国際会議を中心としての研究動向寸描である。北東アジア諸国の研究者、政策担当者が中心になっての開発金融協力の現代的課題につき論点の整理及びその展望が論究されている。

① Seminar on A Vision for Regional Cooperation in Northeast Asia

Seoul, Korea, 7 December 2005

Session 2: *Requirements for Regional Multilateral Financial Institutions*

【Presenters and Commentators】

‘ *The Concept and Desirability of a Multilateral Financial Institution for NEA* ’

Ma Junlu, Chairman of Finance Department, Nankai University, Tianjin, China

‘ *Comments on the Japanese Perspective on the Proposed NEADB Based on the Tokyo Foundation Report* ’

Yasuhiro Chiba, Professor and Director, I BR I, Akita Keizaihoka University

‘ *The Expanded Tumen River Area Development Programme in the Context of a Proposed Regional Bank* ’

Gombo Tsogtsaikhan, Economic Adviser to the Prime Minister, Mongolian

Lee-Jay Cho, Chairman, Northeast Asia Economic Forum

Comments : Jung-Duk Lim, Professor of Economics, Pusan University, Republic of Korea

NEAEF と東北アジア時代委員会共催でありエネルギー、運輸交通、NEADB アクションプラン及びNEADB 改修案などが議論された。韓国が朝鮮半島の和平のために北東アジアの中心ハブとしての視点から政策提言が話し合われた。

② Road to Prosperity and Cooperation: Financial Hub in Northeast Asia

Organized by KAMCO(Korea Asset Management Corporation), KDB(Korea Development Bank), Korea EXIM Bank, KIC(Korea Investment Corporation), KIEP(Korea Institute for International Economic Policy) Seoul, Korea, 8 December 2005

Session 1 : *Development Financing in East Asia*

Subject 2 : *Application of Public Capital to Development Financing in North East Asian Region*

(1) *Public Capital to Development Financing in North East Asian Region(NEAR)*

Young Rok Cheong (Seoul National University)

(2) *The Establishment of the North East Asia Development Bank and Korea role on it*

Chiba Yasuhiro (Akita Keizaihoka University, JAPAN)

Session 2 (KAMCO): *The Current Situation of Corporate Restructuring Market and Role of KAMCO*

Session 3 (KIC): *The Status and Future perspectives of Government Investment Management Corporation*

公的金融機関、民間金融機関からの金融ハブ中心政策に対しての実務的アプローチが検討された。公的金融セッションでは北東アジア経済フォーラム趙利済議長をチェアマンに北東アジア開発銀行構想を巡っての金融協力の処方箋などが話し合われた。

③ Regional Economic Cooperation in Northeast Asia :Proceedings of the15th Meeting of the Northeast Asia Economic Forum

Session 3 : *Panel Discussion on the Northeast Asian Development Bank*’

【Presenters and Commentators】

(1) *Function and Role of the Northeast Asian Development Bank: Current Situation*

Ma Junlu, Vice Dean, School of Economics, Nankai University, China

(2). *Strategic Approach for the Northeast Asian Development Bank*

Jai Min Lee, Director General, Overseas Economics Research Institute, Korea Exim Bank

Comments :

Zhou Ping, Chairman, API China.

Yasuhiro Chiba, Professor, Akita Keizaihoka University, Japan

In-Young Kin, Vice President for International Cooperation and Professor, Hallym University

第1セッション「北東アジアのエネルギー」第2セッションは、NIRAが参加した「北東アジアの交通とランドデザイン」そして第4セッションは「北東アジアの観光」をテーマに行なわれた。第3セッションは上記の「北東アジア開発銀行」をテーマとして2つの報告とパネル討議が行われた。報告はいずれも北東アジア開発銀行設立の必要性および問題点の総括的説明と代替案と多様な議論が展開された。第3セッションの詳細は拙稿『INAS Report』No.18(2006.12)参照

注2 日本国際経済学会第65回全国大会2006年10月14日-15日開催(名古屋大学)共通論題は以下である。「東アジア経済統合：課題と展望」をテーマに山澤逸平(国際大学)「東アジア共同体の構築—異なる期待をいかに集約し、さまざまな障壁をいかに乗り越えるか」、山下英次(大阪市立大学)「域内通貨同盟の構築—日本とアジアにとって死活的に重要—」、浦田秀次郎(早稲田大学)「市場誘導型から制度誘導型にシフトするアジアの経済統合」でもって議論された。

注3 欧州と東アジア或いは北東アジアとの比較研究の視点は重要である。先行事例として環日本海学会第11回学術研究大会2005年10月1日-2日開催(弘前大学)の共通論題「越境広域のランドデザイン構築：環日本海(東海)地域の平和と相互交流促進の展望」Constructing Grand Designs of Trans-national Regions: Prospects for Regional Peace and Promotion of Reciprocal Exchanges, Japan Sea (East Sea) Rimで北東アジアランドデザインとEUのサブリージョナル地域である欧州北海地域を対象とした環北海ランドデザインとの下位地域協力の比較研究が検討された。EUの先行地域との比較研究アプローチは北東アジアの地域経済協力、物流(貿易・海運)、開発金融協力等のあり方に多くの示唆をあたえている。参照：中村信吾・多賀秀敏・柑本英雄編著『サブリージョンから読み解く EU・東アジア共同体—欧州北海地域と北東アジアの越境広域ランドデザイン—』弘前大学出版会2006.9

柑本英雄「越境広域経営計画(ランドデザイン)と地方自治体の役割—北海沿岸地域の『ノルヴィジョン(NorVision)』のケース—」自治体国際化協会『自治体国際化フォーラム』No.169 2003.12. NorVision 策定委員会(監訳・解題 柑本英雄)『Nor Vision—北海沿岸地域の越境広域経営の展望—』2005.9 新潟県地域総合研究所、『ノルヴィジョン』完全版(英語)は下記参照。

<http://www.planco.de/cgi-bin/index.asp?sprache=6&menu=3&textverweis=28>

欧州の金融協力方式である越境地域協力資金「インターレグ (INTERREG) IIC」に関しては柑本英雄「循環の海をどう戦略的に演出するか：欧州北海地域協力のケース」小泉格編『日本海学の新世紀3 循環する海と森』角川書店2003.3を参照。尚、越境地域協力資金「インターレグ (INTERREG) IIIB」北海地域プログラムのERDF(欧州地域開発基金：1975設立)総支出額は1億3200万ユーロ(2005年6月現在)となっている。

注4 Katz, Stanley (1997) Financing Northeast Asia's Infrastructure Requirements Is a New Development Bank Needed? -A Quantitative Assessment-, Regional Economic Cooperation in Northeast Asia :Proceedings of the 7th Meeting of the Northeast Asia Economic Forum: Ulanbaatar

Katz, Stanley (2000) "Financing the Infrastructure Investment" Paper of presented at EWC/KDI Conference "A Vision for Economic Cooperation in East Asia: China Japan and Korea "East-West Center, Honolulu

Katz, Stanley (2002) " Financing infrastructure Development and the Northeast Asian

Development Bank Concept "Paper of Working Group presented at the 11th Meeting of the Northeast Asia Economic Forum; Anchorage

注5 東京財団 NEADB 研究プロジェクト・チーム『北東アジア開発銀行 (NEADB) の創設と日本の対外協力政策—21 世紀のモデルを目指して—』(チームリーダー・Y 余照彦 國學院大學教授) は 2 部構成である。同財団より研究報告書/モノグラフ・シリーズ No.7 として発行されている。

注6 前掲の NEAEF ハバロフスク会議資料参照

注7 日本国際経済学会第 61 回全国大会 2001 年 10 月 5 日—6 日開催 (東北大学) 「北東アジア開発銀行構想—論点整理を通して—」

注8 NEAEF で取り上げられている資金需要の理論的推計は下記がある。

1993 年第 4 回 NEAEF (韓国龍坪)

①B.キャンベル: NEADB 設立の必要性についての理論的裏付け

Campbell, Burnham O. (1993) "Financial Cooperation in Northeast Asia: An Overview of the Case for a Northeast Asian Development Bank." Proceedings of the Yongpyeong Conference, NEAEF.

② 嘉数啓: 資金需要に関する予測と出資額の配分、組織及び運営-ADB を事例として下記で検討。

Campbell, Burnham O., Kakazu Hiroshi, Sekiguchi Sueno [1994]

A Northeast Asia Development Bank? An Introductory Analysis.

ここでは必要資本量を資本装備率と投資/貯蓄ギャップモデルを使って推計を行なっている。

1990—95 年の年実質成長率を 3%、1995—2005 年の成長率を 5%、総投資率=総国内貯蓄率 25%、資本減耗を考慮した純投資率を 20% (シナリオ 1) と 15% (シナリオ 2) の 2 ケースがある。

仮定: 1983 年時点での韓国における資本/労働比率 (=資本装備率) を達成する。

シナリオ 1: 1996—2005 (10 年間) の域内資本不足額=必要外資額は、2、210 億ドル (年平均で約 221 億ドル)、

シナリオ 2: 1996—2005 (10 年間) の域内資本不足額=必要外資額は 2、830 億ドル (同 283 億ドル) になる。

(中国とロシア内の D N E A 以外の地域からの純資本流入を勘案してない数値である。)

• 1995 年第 5 回 NEAEF (新潟) で嘉数啓: 資金需要を公表

Kakazu Hiroshi (1995). "Regional Cooperation and the Northeast Asia Development Bank." Proceedings of the Fifth Meeting of the NEAEF, Niigata, Japan.

• 1997 年第 6 回 NEAEF (ウランバートル)

S.カッツ: 北東アジアインフラ整備の資金需要および開発銀行の具体的なビジョン作り

Katz S. Stanley (1997).op.ct.,

インフラ整備資金: この地域の社会資本整備を満足できる水準まで向上させるには、年間 75 億ドルの投資資金が必要である。しかし、95 年のデータに基づく試算では、世銀、アジア開発銀行、ヨーロッパ復興開発銀行の融資が 15 億ドル、日本、アメリカなどが二国間援助 5 億ドル、民間投資資金が 5 億ドルで、供給可能な見込み総融資額は 25 億ドルで、差し引き 50 億ドル不足する。この不足を補う調達手段としての役割が北東アジア開発銀行と位置付ける。

注9 開発資金量、投資規模の推計について『北東アジアのグランドデザイン—発展と共生のシナリオ—』では、2001—2020 年の 20 年間に約 9,300 億^Fの投資 (年平均 465 億^F) が必要と推計している。最近の推計として、平木俊一論文 (「北東アジアの開発資金量と資金ソース」『北東アジアの開発の展望』(財) 日本国際問題研究所 2003 年 3 月) は北東アジアを対象とした実証的積み上げの定量分析の研究を行っている。また、環日本海経済研究所 (ERINA) で開発したマクロ計量モデルなども含め国際共同研究も行われている。NIRA 『北東アジアの長期経済展望—選択的シナリオ—』2006.1。地域別推計として以下がある。

阿部一知「中国北部の開発投資資金需要と開発金融」NIRA 『北東アジアグランドデザイン 2005—国土計画と分野別開発戦略—』2006.7 NIRA。近時の韓国での研究として下記がある

Won-Suh CHOO, [2004] "Development Financing in Northeast Asia: Demand Estimation and Suggestions" Proceedings of the 13th Meeting of the NEAEF, Seoul. (ウォン・スー・チュウ: 「東

アジアにおける開発金融：需要予測と政策提言」NIRA『北東アジアのグランドデザイナー共同発展に向けた機能的アプローチ』NIRA 2005.11

Sang-Loh Kin, [2005] “Strategic Approach for Development Financing and Role of Private Capital” *Proceedings of Road to Prosperity and Cooperation: Financial Hub in Northeast Asia* Session1 [Subject1] Presenter 2, Seoul.

2004 年第 13 回 NEAEF (ソウル) で報告された。

各国の報道関係の記事を紹介しておく。

・「マネートゥデー」2004 年 5 月 19 日に「北東アジア開発、関連国政府のリーダーシップがキーポイント」の記事で「財源調達方向では、北東アジア開発銀行(NEADB)、北東アジア投資公社(NEAIC)、北東アジア基金(NEAF)当の設立方向で提示された」と、「北東アジアのエネルギー、鉄道等社会間接資本開発に用いられる財源を自体調達」が検討された。

韓国政府が 2004 年中に金融ハブ構築のため中長期課題に盛り込まれた北東アジア開発銀行の設立を、政府間協議で中国、日本等各国に提案を準備。

・「韓国経済」ネット版 2003 年 12 月 15 日

「東北アジア開発銀行設立、来年政府間協議提案」

・同上、開発需要予測が韓国政府により行われた。「今後 10 年間中国にだけ SOC 開発需要が 1 兆 1700 億ドルに至ることで展望しており、この機関は北朝鮮が 150 億ドル、モンゴルと極東ロシア地域に 500 億ドル以上の SOC 開発のための資金需要が発生することで推定している。」

注 10 詳論は千葉康弘『北東アジアの経済協力の研究』春秋社 2005pp.32-34 参照

注 11 同上書 pp34-37 参照

注 12 TF 案のアクションプランは段階論アプローチの“議論から行動”への嚆矢となっている。同研究プロジェクトの報告書(2002年)及び Twu 照彦「東北振興」「北東アジア開発銀行」構想がもたらす一大転換—北東アジア地域協力」, 毎日新聞『エコノミスト』2004 年 7 月 13 日第 82 巻第 40 号

注 13 鄭承衍「北東アジア開発銀行設立に関する一考察」環日本海学会第 11 回学術研究大会 2005.10

注 14 Lee, Jai Woong(2001)A Design for Alternative Fund Raising of the NEADB: Equity Financing through the Private Capital Market *Proceedings of the 10th Meeting of the Northeast Asia Economic Forum*, 26-29 May 2000, , Changchun ,China.

李在雄著の以下の文献にこれまでの NEAEF の取り組みが詳解されている。

Lee, Jai Woong. (2004.) *Global Finance: A Northeast Asia Approach, NEADB Update* Seoul: Dasarang..

注 15 出所：情報ソース：中国商務省 2004 年 5 月 17 日、2004 年 5 月第 37 回 ADB 総会でも各国代表が NADFC と NAECA に関し意見の一致をみている。

<http://www.mofcom.gov.cn/aarticle/ij/200405/20040500221230.html>

同様な組織は東南アジアを中心に旧日本興業銀行などアジア七カ国の金融機関が社会資本整備や産業振興を目的「アジア産業開発金融機関協議会」として 1995 年に発足している。国際的な大規模開発プロジェクト実現のため、投資ファンドや開発基金を活かす方式が検討されている。(参考：日本経済新聞 1995/07/18, 2部 p.6)

注 16 NADFC についての目的、諸活動及び将来計画は以下である。

韓国産業銀行 HP 参照。 <http://www.kdb.co.kr/screen/jsp/IHEng/IHEngUPrt02030502E.jsp>

Purpose : 目的

KDB は共同事業によって韓国、中国および日本中の協力を増強すると同時に、北東のアジアの地域の一層の開発 SOC (Social Overhead Capital) および主なインフラストラクチャ・プロジェクトに投融資するために NADFC を確立。

Recent Developments : 最近の状況

2004 年 3 月 25 日：みずほコーポレート銀行斎藤宏頭取、KDB 頭取 NADFC の提案会議

2004 年 4 月 15 日：中国開発銀行の Chen 総裁 KDB 頭取(KDB Governor) KDB 頭取 NADFC の提案会議

2004年4月29日-第1回NADFC（ソウル）で開催。
2004年5月16日- NADFCの為、MOUに署名（KDB, CDB, みずほコーポレートバンク）調印式。
2004年10月27日-Hyosung Spandex(広東省)へNADFC、および他の7つの銀行から構成されたコンソーシアムより7億ドルのシンジケート・ローン。

Future Plan : 将来計画

- ① Trainee Exchange Program : 訓練生交換プログラム
- ② Project Development : NADFCメンバーに役立つ新しいプロジェクトを追求
- ③ NADFC基金の設立

また、各国の関連記事は以下である。

- ・朝鮮日報 web 記事入力：産銀「北東アジア金融協議体」を推進 [2003/03/19 16:08]
"北東アジア 開発金融 協議体" 設立 [2004-05-16 16:53]
- ・「韓国経済」ネット版2003年12月15日
「政府は優先1段階で今年から協議を始めた産業銀行（韓国）－中国開発銀行(CDB)－日本みずほ銀行間‘北東アジア開発金融協議体’の構成と発足を来年中に仕上げる一方、韓－中－日3国政府間金融協力会の等を活性化し北東アジア開発銀行設立のための基盤を押し固めていく計画だ。」を指摘している。
同様な内容が「貿易日報」2003年12月15日に‘来年 北東アジア開発銀行設立、政府、中国、日本3国間協議体優先推進’が掲載された。
- ・中国商務省ホームページ [2003-12-16 13:15]
「韓国は北東アジア開発銀行の設立に積極的に推進」
<http://www.mofcom.gov.cn/column/print.shtml?/i/j/200312/20031200160402>
- ・台湾国際貿易局 [2004年5月18日]
「韓国・日本と中国大陸は北東アジア開発金融協議体の覚書を締結」
http://ekm92.trade.gov.tw/BOFT/web/report_detail.jsp?data_base_id=DB009&category_id=CAT1922&report_id=60250

注17 銀行別の関与金額は、産業銀行が4000万ドル、ウリ銀行が3000万ドル、中国建設銀行が1300万ドルの順だ。金利は2000万ドル以上は、Libor+105bp、1000万ドル以上はlibor+103bp、それ未満はlibor+100bpとし、満期は7年（2005.10.20）

注18 日中韓輸出入銀行長会議でNAECA事項が検討されることになる。韓国輸出入銀行「第1回韓日中の輸出入銀行長会議の開催について」『輸銀海外経済』2005.6 pp-83-84

注19 「アジア開発銀行は佐藤内閣の時に作った……佐藤首相（当時）がワシントンを訪ねて、二つの国の指導者の思惑と国家的利益と反共主義の土台が広く合致して……日本から総裁を出す条件でアジア開発銀行ができた……」INAS Report No.4 (1998.11) p.10

注20 北東アジア・グランドデザイン研究会編著（2003）『北東アジアのグランドデザイン—発展と共生のシナリオ—』日本経済評論社

注21 拙著（2005）『北東アジア経済協力の研究—開銀構想・開発ビジョン・地域連携—』春秋社

注22 第13回NEAEF(2004年9月)のソウル会議でモハメッド・ハラディエー・Mohammad Farhandi, 元世界銀行エネルギー専門官が発表)

注23 第13回NEAEF(2004年9月)のソウル会議“The Grand Design and Northeast Asia’s Investment Needs”での報告である。

注24 ここでは具体的に、安全保障の進化するパターンの観点から「勢力均衡型安全保障」に続くのは「集団的安全保障」である。集団的安全保障は、NATOの例が示すように軍事的に平和を維持させる形態である。さらに進んだパターンがEUのような経済圏構築による地域の発展に貢献する『協調的安全保障』である（北東研究会前掲書 pp. 99-101）また、協調的安全保障 (cooperative security) という概念は、「1975年に設立されたCSCE（全欧安保協力会議95年OSCEと改称）の基本理念であり、ソ連崩壊後にわかに注目されるようになった。」その狙いは「軍事力による対抗的な安全保障よりも、対話を含めた総合的な手段を重視し、相互協力を通して、信頼醸成を図ることを主な特徴とする。」「東アジアにおいても、多国間協議や信頼醸成、安全保障対話の理論

的根拠として注目」されている。(平和安全保障研究所「北東アジアの地域協力の研究」2000. 9, pp.2-48)

注 25 「日中韓トライアングル国際開発構想」は各セクターごとに日中韓の連携の取り組みが行われていることからの提案である。例えば、北東アジアグランドデザイン研究会前掲書 pp.199-209 及び中野有「21 世紀の国際機構・北東アジア経済社会機構の設立を」(北東アジアビジネス協力センター、column、2002 年 2 月 18 日)を参照。開発資金調達のための資金協力体制としての提案である。中野提案は NIRA 案をもう一步踏み込み、役割分担説に基づく具体的な日中韓トライアングル構想でもある。この国際機構をベースに日本に金融メカニズム機能、中国にインフラ開発機能、韓国に社会開発機能に対する資金支援機構を設立するである。又、李鋼哲は北東アジア地域経済協力における最優先課題は「金融協力」であるとし地域開発を推進するための多国間開発金融機構の創設を導き出している。その具体的な提案として中国、韓国、日本三ヶ国が共同で三つの金融機能を果たす機構を設立することの構想の提案である。つまり、開発銀行の機能は中国、信託投資の機能は韓国、通貨基金機能は日本、という構図である。これらは「北東アジア開発銀行」、「北東アジア信託投資基金」そして「東アジア金融協力機構」の構想である。この 3 機構のなかで「北東アジア開発銀行」構想を最優先構想として整理している。李鋼哲「北東アジアの地域協力のパラダイムの変化と金融協力」(名古屋大学動態研究所英文論文)を参照。また、NIRA 北東アジアグランドデザインフェーズ II では「北東アジア OECD に向けた行程表」として北東アジア版 OECD を提案している。それは「各国の非政府組織 (NGOs) 等によって随時すすめてきた北東アジア問題研究を、各国政府関係者も参加した常設のトラック 2 タイプの協議プラットフォームに移行し、課題に応じて漸次政府ベースの検討の場を拡大していく。その後、エネルギー開発その他特別目的の協力体制 (コミュニティ) を立ち上げながら、最終的には、北東アジア地域の OECD のような性格を持つ「経済と開発に関する多国間協力調整機構」の構築を目指す」としている。

参考文献&関連資料

- アジア開発銀行(1999-2003)『アジア開発銀行年次報告』1999 年版～2005 年版
(<http://www.Adb.org/Documents/Translations/Japanese/AnnualReport2000JP.pdf>)
環日本海経済研究所(1999)『北東アジア経済白書—21 世紀のフロンティア—2000 年版』. 12
環日本海経済研究所『ERINA REPORT』各号
環日本海総合研究機構『INAS Report』各号
環日本海学会『環日本海研究』各号
斎藤祥男(1997)「北東アジアと開発銀行設立構想」『国際金融』995-996 号
世界銀行 (2000-2004)『世界銀行年次報告』1999 年版～2005 年版。
総合研究開発機構委託研究(2002)『北東アジアのグランドデザイン—地域の安定と繁栄に向けて—』コーエイ総合研究所
柑本英雄 (2003)「「越境広域経営計画 (グランドデザイン)」と地方自治体の役割 —北海沿岸地域の『ノルヴィジョン (NorVision)』のケース— 自治体国際化協会『自治体国際化フォーラム』No. 169
柑本英雄 (2003)「循環の海をどう戦略的に演出するか: 欧州北海地域協力のケース」小泉格編『日本海学の世紀 3 循環する海と森』角川書店
総合研究開発機構 (2001)『北東アジアエネルギー・環境共同体への挑戦』日本経済評論社、
総合研究開発機構 (2005)『北東アジアグランドデザイン—共同発展に向けた機能的アプローチ—』
総合研究開発機構 (2006)『北東アジアの長期経済展望—選択的シナリオ—』
総合研究開発機構 (2006)『北東アジアグランドデザイン 2005—国土計画と分野別開発戦略—』
総合研究開発機構『NIRA 政策研究』各号

- 千葉康弘 (2002) 「北東アジア開発銀行構想とインフラ整備—地方レベルの視点を通して—」『秋田経済法科大学経済研究所所報』第30号
- 千葉康弘・李鋼哲(2002) 「北東アジア開発銀行 (NEADB) 創設構想を巡る問題点と課題—論点整理を通して—」『INAS Report』No.12
- 千葉康弘 (2005) 『北東アジア経済協力の研究—開銀構想・開発ビジョン・地域連携—』春秋社
- 趙利済、スタンリー・カツ (2001) 「北東アジア開発銀行構想」『NIRA 政策研究』vol. 14
- 丁士晟 (1996) 『図門江開発構想—北東アジアの新しい経済拠点—』創知社
- 鄭承衍 (2005) 「北東アジア開発銀行設立に関する一考察」『環日本海学会第11回学術大会・予稿集』
- Twu 照彦(2002) 「北東アジア開発銀行の創設に向けて—日本対外協力政策の新地平を開く—」世界経済研究協会『世界経済評論』46巻12号.
- 東京財団 NEADB 研究プロジェクト・チーム(2002) 『北東アジア開発銀行 (NEADB) の創設と日本の対外協力政策—21世紀のモデルを目指して—』東京財団
- 北東アジア・グランドデザイン研究会 (NIRA チャレンジ・ブック) (2003) 『北東アジアのグランドデザイン—発展と共生のシナリオ—』日本経済評論社
- 北東アジア社会資本調査委員会編(2001) 『北東アジアの社会資本』北陸建設弘済会.
- 中村信吾・多賀秀敏・柑本英雄編著 (2006) 『サブリージョンから読み解く EU・東アジア共同体—欧州北海地域と北東アジアの越境広域グランドデザイン—』弘前大学出版会
- 平木俊一 (2003) 「北東アジアの開発資金量と資金ソース」『北東アジアの開発の展望』(財) 日本国際問題研究所
- 新潟県、ERINA 他『北東アジア経済会議 発言要約集』各年版
- .NorVision 策定委員会 (監訳・解題 柑本英雄) (2005) 『Nor Vision—北海沿岸地域の越境広域経営の展望—』新潟県地域総合研究所,
『ノルヴィジョン』完全版 (英語)

<http://www.planco.de/cgi-bin/index.asp?sprache=6&menu=3&textverweis=28>

欧文文献

- ADB's AnnualReport2000
(<http://www.adb.org/Documents/Translations/Japanese/AnnualReport2000JP.pdf>)
- The World Bank AnnualReport 2002, 2001, 2000, 1999, 1998, 1997, 1996
(<http://www.worldbank.org/annualreport>)
- Northeast Asia Economic Forum :
- Changchun, 1991 ; Vladivostok, 1992 ; Yong—pyeong, 1993 ; Niigata, 1995 ; Honolulu, 1996 ; Ulaanbaatar, 1997 ; Yonago, 1998 ; Tianjin, 1999 ; Changchun, 2001 ; Anchorage, 2002
- Northeast Asia Economic Forum : Toward a Northeast Asian Community : Energy, Infrastructure Development, and Financing, Organized by the Northeast Asia Economic Forum, OSaka, Japan, 26—27 September2002
- Bank for International Settlements(2001), *International Banking and Financial Market Developments*, March .Bank for International Settlements 2001
- Black Sea Trade and Development Bank: <http://bstdb.gr>
- Campbell, Burnham O.(1991). "The Potential for Economic Integration in Northeast Asia," *Proceedings of the Conference on Economic Development in the Coastal Area of Northeast Asia*, 19-31 August 1991, Changchun, China.
- Campbell, Burnham O. (1993). "Financial Cooperation in Northeast Asia: An Overview of the Case for a Northeast Asian Development Bank." *Proceedings of the Yongpyeong Conference*, 26-28 September 1993, Northeast Asia Economic Forum.
- Campbel Burnham O., Kakazu Hiroshi, Sekiguchi Sueno (1994). A Northeast Asia Development Bank? An Introductory Analysis.

- Campbell, Burnham O. (1992). Regional Comparative Advantage in Northeast Asia: Determinants of the present Structure and some Future Possibilities. Proceedings of the Vladivostok Conference, 36-74 August 1992, Northeast Asia Economic Forum.
- Cho, Lee-Jay. 1999. Population and Sustainable Development: The Twenty-First-Century Challenge for Population, Food, the Environment, and Water Resources. Paper presented at the *Sixteenth Asian Parliamentarians' Meeting on Population and Development*, Bangkok, Thailand, 18-20 March 2000.
- Chiba Yasuhiro (2005) 'Comments on the Japanese Perspective on the Proposed NEADB Based on the Tokyo Foundation Report' Seminar on A Vision for Regional Cooperation in Northeast Asia, Meeting of the Northeast Asia Economic Forum; Seoul, Korea, 7 December 2005
- Chiba Yasuhiro (2005). The Establishment of the North East Asia Development Bank and Korea role on it' The Conference on *Road to Prosperity and Cooperation: Financial Hub in Northeast Asia* Organized by KAMCO (Korea Asset Management Corporation), KDB (Korea Development Bank), Korea EXIM Bank, KIC (Korea Investment Corporation), KIEP (Korea Institute for International Economic Policy) Seoul, Korea, 8 December 2005
- Chiba Yasuhiro (2006). 'The Cooperation of Development Financing in Northeast Asia :Comments on the Northeast Asian Development Bank' Panel Discussion on the Northeast Asian Development Bank *Proceedings of the 15th Meeting of the Northeast Asia Economic Forum*, Khabarovsk, 5-7 September 2006
- Cho, Lee-Jay, and Yoon Hyung Kim, eds. (1998). *Korea's Choices in Emerging Global Competition and Cooperation*. Seoul: Korea Development Institute (KDI) Press
- Cho, Lee-Jay (1995). *Economic Systems in South and North Korea: The Agenda for Economic Integration*. Seoul: Korea Development Institute (KDI) Press.
- Cho, Lee-Jay, and Mark J. Valencia. (1991). *International Conference on Cooperation in the Economic Development of the Coastal Zone of Northeast Asia, Changchun, China, July 1990*. Honolulu: East-West Center.
- Edwards, David (1998). "Financing Infrastructure Development." *Proceedings of the Eighth Meeting of the Northeast Asia Economic Forum*, 28-30 July 1998, Yonago, Japan
- EBRD, 'Annual Report', European Bank for Reconstruction and Development, 1991-2000
- European Bank for Reconstruction and Development: <http://www.ebrd.com>
- EBRD, (1991) 'Operational Challenges and Priorities: Initial Operations', *European Bank for Reconstruction and Development*,
- Hicks, John Richard. (1946) Value and capital; an inquiry into some fundamental principles of economic theory. 2d ed, Oxford: Clarendon Press 安井琢磨, 熊谷尚夫訳『価値と資本 : 経済理論の若干の基本原理に関する研究. I』岩波書店 1965. 6, 安井琢磨, 熊谷尚夫訳『価値と資本 : 経済理論の若干の基本原理に関する研究. II』岩波書店 1965. 8
- IMF, International Financial Statistics, May 2001.
- IMF, World Economic Outlook, May 2001.
- Jan P. M. van Heeswijk (1995). "Development Financing and Banking." *Proceeding of the Fifth Meeting of the Northeast Asia Economic Forum*, 16-17 February 1995, Niigata, Japan.
- Institute for International Cooperation Japan International Cooperation Agency (1998), *International Symposium on Local Development and the Role of Government: New Perspectives on Development Assistance*. Japan International Cooperation Agency September, 1998
- Kanamori Hisao (1997). Development Issues in Northeast Asia, Regional Economic Cooperation in Northeast Asia : Proceedings of the 7th Meeting of the Northeast Asia Economic Forum (June 1997)
- Kakazu Hiroshi (1993). "Organizational Structure and Funding Sources of a Northeast Asian Development Bank." *Proceedings of the Yongpyeong Conference*, 26-28 September 1993, Northeast

- Asia Economic Forum.
- Kakazu Hiroshi (1995). "Regional Cooperation and the Northeast Asia Development Bank." *Proceedings of the Fifth Meeting of the Northeast Asia Economic Forum*, 16-17 February 1995, Niigata, Japan.
- Kakazu Hiroshi (1998). "The Proposed Northeast Asian Development Bank." *Proceedings of the Eighth Meeting of the Northeast Asia Economic Forum*, 28-30 July 1998, Yonago, Japan.
- Katz, S. Stanley (1991). "Asia's Regional Integration: Lessons from Eastern Europe." *Proceedings of the Conference on Economic Development in the Coastal Area of Northeast Asia*, 19-31 August 1991, Changchun, China.
- Katz, S. Stanley (1995). "Major Points Emerged from the Session." Commentary in *Proceeding of the Fifth Meeting of the Northeast Asia Economic Forum*, 16-17 February 1995, Niigata, Japan.
- Katz S. Stanley (1996) "A Northeast Asian Development Bank." *Proceedings of the Sixth Meeting of the Northeast Asia Economic Forum*, 18-19 January 1996, Honolulu, Hawaii.
- Katz S. Stanley (1997). "Financing Northeast Asia's Infrastructure Requirements: Is a New Development Bank Needed? A Quantitative Assessment." *Proceedings of the Seventh Meeting of the Northeast Asia Economic Forum*, 17-21 August 1997, Ulaanbaatar, Mongolia.
- Katz S. Stanley (1998a) "Financing infrastructure Development and the Northeast Asian Development Bank Concept"
- Katz S. Stanley (1998b) "Report of the Consultative Working Group on the Northeast Asian Development Bank." *Proceedings of the Eighth Meeting of the Northeast Asia Economic Forum*, 28-30 July 1998, Yonago, Japan.
- Katz, S. Stanley (1999) "The Role of a Northeast Asian Development Bank in Northeast Asia's Future Development." *Proceedings of the Ninth Meeting of the Northeast Asia Economic Forum*, 26-29 October 1999, Tianjin, China.
- Katz, S. Stanley (2000) "Financing the Infrastructure Investment" Paper presented at EWC/KDI Conference "A Vision for Economic Cooperation in East Asia: China Japan and Korea "East-West Center, Honolulu (August 2000)
- Katz, S. Stanley (2002) "Financing infrastructure Development and the Northeast Asian Development Bank Concept "Paper of Working Group presented at the 11th Meeting of the Northeast Asia Economic Forum; Anchorage (March 2002)
- Keith, Chiddy (1998). "A Western Commercial Bank's Relationship with Northeast Asia." *Proceedings of the Eighth Meeting of the Northeast Asia Economic Forum*, 28-30 July 1998, Yonago, Japan
- Kim, Mum Song (1996). "Integrated Development of Infrastructure and the Rational Use of Funds in Developing the Tumen River Area." *Proceedings of the Sixth Meeting of the Northeast Asia Economic Forum*, 18-19 January 1996, Honolulu, Hawaii.
- Kim, Won Bae, ed. (1994). *Managing Labor Migration in Northeast Asia*. Northeast Asia Study Report No. 1. Honolulu: Northeast Asia Economic Forum.
- Kim, Won Bae, and Burnham O. Campbell. (1992) *Proceedings of the Conference on Economic Development in the Coastal Area of Northeast Asia, Changchun, China, August 1991*. Honolulu: East-West Center and Sasakawa Peace Foundation.
- Kim, Won Bae, "[Regional Cooperation In Northeast Asia: A Spatial Perspective](#)" *Proceedings of the Conference on Economic Development in the Coastal Area of Northeast Asia*, 19-31 August 1991, Changchun, China.
- Lee, Jai Woong (2001). "The Role of the Private Sector in Development Finance in Northeast Asia" *Proceedings of the Tenth Meeting of the Northeast Asia Economic Forum*, 27-29 April 2001, Changchun, China
- Lee Jai Woong (2002). Changing International Environment of NEADB (or NEADF) After Changchun Meeting, April, 2001 ; Paper of Working Group presented at the 11th Meeting of the

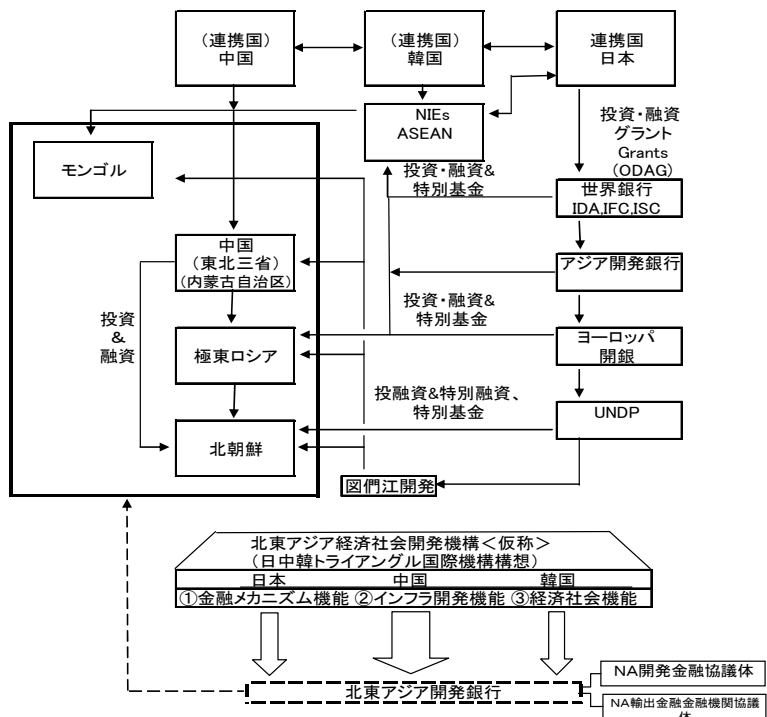
- Northeast Asia Economic Forum; Anchorage (March 2002)
- Lee, Hyong-kum (2004) Evaluation on the Debate on NEADB and its Implications for Northeast Asia Development KIEP 2004.12 Proceedings of the 13th Meeting of the Northeast Asia Economic Forum; Seoul
- Lee, Jai Min (2006) *Strategic Approach for the Northeast Asian Development Bank Proceedings of the 15th Meeting of the Northeast Asia Economic Forum*; Khabarovsk, 5-7 September 2006
- Lee, Jai Woong. (2004.) *Global Finance: A Northeast Asia Approach*, NEADB Update Seoul: Dasarang..
- Lee, Jai Woong. (2001). *Theory of Global Finance: Twenty-First Century Global Financial Vision of Korea*. Seoul: Dasarang..
- Li, Gang-Zhe, Li GUO ed (2006) *Regional Financial Cooperation of Northeast Asia in Era 21st: The Theory and Reality of Challenge to Establish a NEADB*. Northeast Asia Research Institute of Heilongjiang University. Published by Social Sciences Academic Press (China)
- Li Gang-Zhe (2004) The Paradigm Change of Regional Cooperation in Northeast Asia and Financial Cooperation by LI Gang-Zhe October 2004 *ECONOMIC RESEARCH CENTER DISCUSSION PAPER No.150* ECONOMIC RESEARCH CENTER SCHOOL OF ECONOMICS NAGOYA UNIVERSITY
- Leipziger, Danny M. (1998) "Thinking about the World Bank and North Korea," Economic Integration of the Korean Peninsula, edited by Marcus Noland, Institute for International Economics, Washington,.
- Ludwig, Noel A., et al. (1999). *Assessment of Future Infrastructure and Financing Requirements for the Development of Mongolia*. Seoul: Korea Development Institute (KDI) Press.
- Ma Junlu (2006) Function and Role of the Northeast Asian Development Bank: Current Situation *Proceedings of the 15th Meeting of the Northeast Asia Economic Forum*; Khabarovsk, 5-7 September 2006
- Nam Duck-Woo "Why is NEADB needed" www.dwnam.pe.kr
- Nakano Tamotsu (2003) "Change in International Situations Surrounding the Korean Peninsula" *The Journal of Economics Department Akita Keizai Hoka University* No.37 March 2003
- Nam Duck-Woo (1991). "The Prospects of Economic Cooperation in Northeast Asia." Paper presented at the Conference of the Northeast Asia Economic Forum at Tianjin, China, 2-7 September 1991.
- Nam Duck-Woo (1991) "Changing Pattern of Economic Interaction in East Asia," Chong-Sik Lee, ed., *In Search of a New Order in East Asia*, Institute of East Asian Studies, University of California, Berkeley, 1991,
- Nam Duck-Woo (1995). "Multilateral Economic Cooperation in Northeast Asia." Keynote address in *Proceedings of the Fifth Meeting of Northeast Asia Economic Forum*, Niigata, Japan, 16-17 February 1995.
- Nambara Akira (1998). "Economic Development in Northeast Asia: Outlook and Issues." *Proceedings of the Eighth Meeting of the Northeast Asia Economic Forum*, 28-30 July 1998, Yonago, Japan.
- NIRA ed. (2003) Grand Design For Stability And Prosperity in Northeast Asia, KRI International Corp. Tokyo Japan
- Park Sung-Sang (1992). "The Korean Experience and the Potential Role of Financial Policy in Northeast Asian Regional Cooperation." *Proceeding of the Vladivostok Meeting of the Northeast Asia Economic Forum*, 25-27 August 1992.
- Park Sung-Sang (1996). "Banking Services for TRADP." *Proceedings of the Sixth Meeting of the Northeast Asia Economic Forum*, 18-19 January 1996, Honolulu, Hawaii.
- Rafael La Porta, Florencio Lopez-De-Silanes, and Andrei Shleifer (2002), Government Ownership of Banks, *Journal of Finance*, 57(1)

- Rosefield, Steven (1998). "Implications of Long-Term Systemic Growth Trends for a Future Northeast Asian Development Bank." *Proceedings of the Eighth Meeting of the Northeast Asia Economic Forum*, 28-30 July 1998, Yonago, Japan.
- Hahid N. Zahid (1995). *Asian Development Bank.. Financial sector development in Asia : country studies . Manila, Philippines* : Asian Development Bank.,
Tokyo Foundation NEADB Project (2002), *The Establishment of a Northeast Asian Development Bank (NEADB) and Japan's international Cooperation Policy* Tokyo Japan
- Wang, Yusheng(1998). "China's Economy and Financial Reform," *Proceedings of the Eighth Meeting of the Northeast Asia Economic Forum*, 28-30 July 1998, Yonago, Japan

【韓国語】

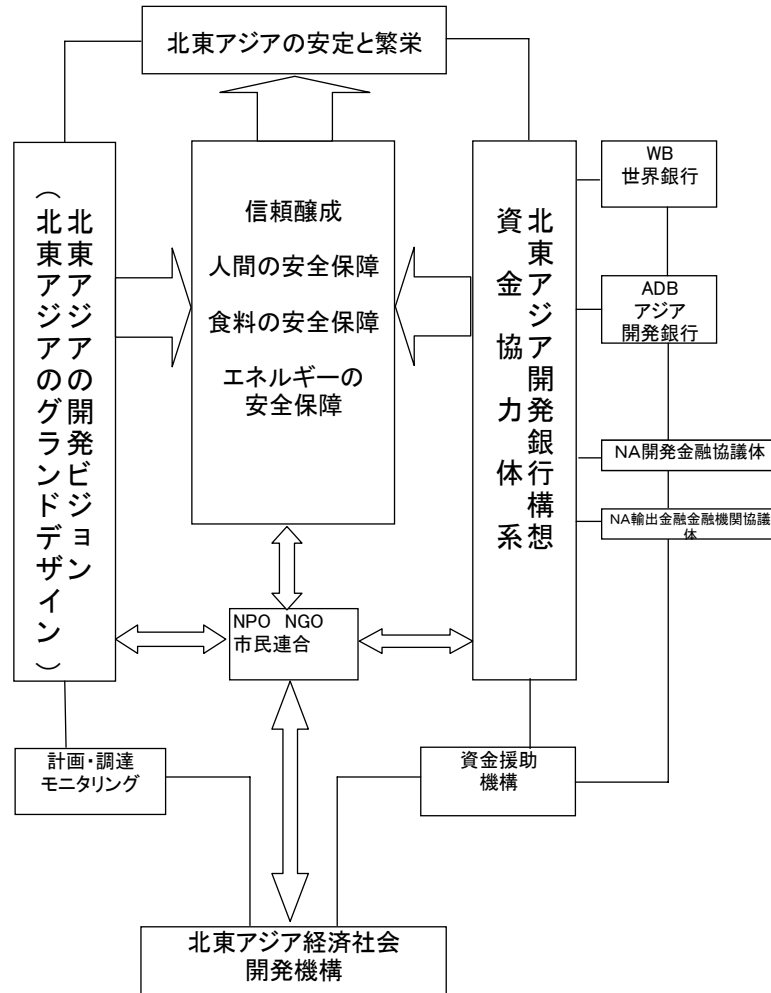
- アン・チョンヨン 「北東アジア経済統合と北東アジア開発銀行」『北東アジア開発銀行と北東アジアマーシャルプラン国際シンポジウム』 2003.4
- アン・チュンヨン、イ・チャンジェ、『北東アジア経済協力：統合の第一歩』 パクヨン社 2003
- イ・ジェミン 「北東アジア開発銀行の必要性及び運用方案」北東アジア平和ヨンセ大学主催第 2 回北東アジア経済フォーラム 2003.5
- キム・ジュヨン 「ユーラシア鉄道を通じたモンゴルの経済協力可能性において」『韓国輸出入銀行海外経済』 2003.4
- キム・イルチョル 「win-win 戦略の北東アジア平和銀行グループ構想」『北東アジア開発銀行と北東アジアマーシャルプラン国際シンポジウム』 2003.4
- オ・ウンサン 「ロシア極東地域のエネルギー圏開発現況及び韓国との資源協力方案」韓国産業銀行『海外経済』 2003.
- シム・イソプ、イ・クァンウオン、『豆満江開発 10 年の評価と展望』 対外経済政策研究院 2001.6
- ジェミン、『北東アジア経済協力における金融の役割』 韓国国際学術通商学会 2003
- ソン・ジョンソク 「中国東北 3 省と黄渤海地域の成長可能性が高い」『韓国産業銀行海外経済』 2003.3
- パク・ジョンドン 「21C 時代の潮流と北東アジア – 時論としての北東アジア経済共同体」
- パクデギョン 「北東アジア開発銀行に関する論議の現況と展望」ソウル大学ー東京大学国際学術会議 2004.10
- パクドンファン 「北東アジア開発のための輸出信用機関の役割」韓国輸出入銀行『輸銀海外経済』 2004.7
- チュウォンソ 「北東アジア開発金融の需要推計及び活性化方案」韓国産業銀行『産銀調査月報』 2004.5
- ナム・ドグ 「なぜ北東アジア開発銀行が必要なのか？」『北東アジア開発銀行と北東アジアマーシャルプラン国際シンポジウム』 2003.4
- ユン・ビョンス 「可視化した北東アジア経済圏の構想」『ナラ経済』 2002.5 月号
- リヒョングン 『北東アジア経済協力：北東アジア開発銀行論議に対する評価と示唆点』 KIEP、2004.
- リゼミン 「北東アジア経済協力における金融の役割」韓国国際通商学会国際学術大会.2003.7
- リヒョングン 「最近の北東アジア経済フォーラムの域内経済協力論議と示唆点」 KIEP『世界経済』 2004.3
- 韓国輸出入銀行 「第 1 回韓日中の輸出入銀行長会議の開催について」『輸銀海外経済』 2005.6
- 産銀経済研究所北東アジア研究センター 「韓国の IDB 加入と北東アジア開発銀行の設立論議」 2005
- 韓国輸出入銀行、輸出入銀行海外経済 各号
- 韓国産業銀行、ECA・国際機構便覧 2002
- 韓国産業銀行 「北東アジア 2003」、2003.7
- 韓国産業銀行 「国内プロジェクトファイナンス現況及び展望」 2003.9
- 企画予算所 「SOC 中長期民間投資計画(2002~2011)」

図 1 北東アジアにおける連携金融協力の概念図



資料: Proceedings of the Niigata Conference, 16-17 February 1995, Northeast Asia Economic Forum, p.110 改修し作成

図 2 北東アジア共生圏の概念図



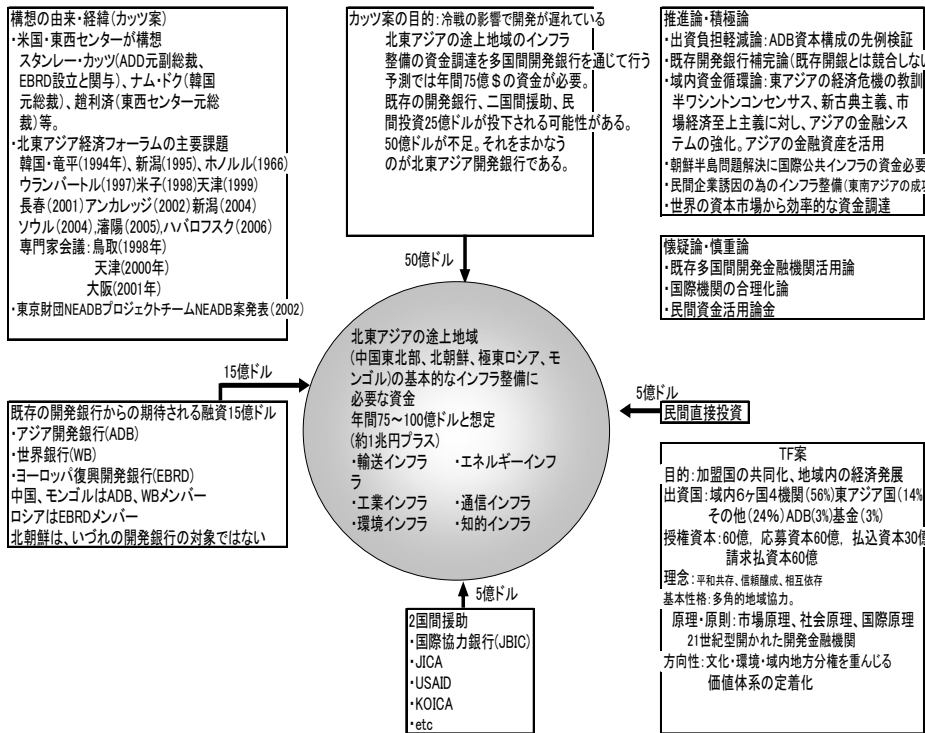
資料1 北東アジア開発銀行構想の推移

| | |
|----------|---|
| 1989年1月 | 中国のアジア太平洋研究所(API)と米国東西センターによる北東アジア経済協力に関するセミナー(北京)が開催され、開発金融に関する問題が初めて取り上げられた。 |
| 1990年2月 | 「東アジア地域の新しい秩序」(ソウル、韓国東亜日報主催)をテーマとした国際セミナーで、韓国産学協同財団の理事長南慮祐(元韓国総理)氏が北東アジア地域における開発銀行の必要性について語った。開発銀行という用語が初めて使われた。 |
| 1991年9月 | 第1回NEAEF(中国・天津)で、南氏は「北東アジア経済協力の展望」をテーマに講演し、その中で「北東アジア開発銀行」設立を提唱した。NEADBというキーワードが初めて登場した。韓国産学協同財団の資金面でのサポートの下で、東西センターでは早速研究チームを立ち上げ、元ADBチーフ・エコノミストのB. キャンベル(Burnham O. Campbell)氏と日本国際大学教授(当時)嘉数啓氏に「北東アジア開発銀行設立に関するフィジビリティ・スタディー」の研究調査を委託(5年間)した。NEADB調査研究の第一歩が踏み出された。 |
| 1993年9月 | 第4回NEAEF(韓国・龍坪(ヨンピョン))で、上記研究チームによる研究成果が発表された。B. キャンベル氏はNEADB設立の必要性について理論的裏付け嘉数教授は資金需要量の予測、出資額及びその配分、組織および運営など、具体的な試案を提示した。各国政府は北東アジア開発銀行の実現可能性について、慎重に検討すべきとの勧告がなされた。 |
| 1994年 月 | 1994年以降カツ提言は年次会議やワークショップの場で一連の論文として発表さる。 |
| 1995年2月 | 第5回NEAEF(新潟市、新潟県と東西センターの共催)で、南慮祐氏は「北東アジアにおける多国間経済協力」をテーマに基調講演し、改めてNEADB創設の必要性について強調し、アピールに努めた。北東アジアの経済発展に必要な外国資本は、一九九六―二〇〇五年の十年間で二千億ドル以上上るとの試算が公表された |
| 1996年1月 | 第6回「北東アジア経済フォーラム・ホノルル会議」(USAハワイ)開催、東西センターの上級客員研究員S. カッツ(S. Stanley Katz、元ADB副総裁)氏がNEADBに関する論稿を発表し、いわゆるカツ構想を打ち出した。「北東アジア地域開発に関するアロハ宣言」を採択する。 |
| 1997年8月 | 第7回「北東アジア経済フォーラム・ウランバートル会議」開催、S. カッツ「北東アジアインフラストラクチャー整備への資金需要―NEADBの必要性」という題の創設案を発表、金森久雄日本代表が「NEADB設立すべし」と強調。 |
| 1997年11月 | 斎藤祥男「北東アジアと開発銀行設立構想」(『国際金融』995号、996号(12月)Katz提言を日本で最初に紹介 |
| 1998年3月 | NEAEF第1回開発金融専門家会議(鳥取)が開催され、中国、韓国、日本などから学者・専門家が参加してNEADB構想の論議が交わされた。同会議ではS. カッツは重ねて自己のNEADB構想について説明した |
| 1998年7月 | 第8回NEAEF(米子市)では、前記の専門家会議の議論を踏まえてNEADBに関するパネルディスカッションが関係諸国・国際機関の専門家を交えて行われた。NEADB設立、その必要性についてはほぼ認識の一致がみられたものの、克服すべき課題も多く、この点を勘案して、現存開発金融機関の活用もその選択肢の一つであるとの意見も見られた。 |
| 1999年10月 | 第9回NEAEF(中国・天津)が開催され、そこで北東アジア開発金融に関するセッションで、S. カッツ氏の報告及びディスカッションが行われた。天津市政府はこの会議でNEADB本部の誘致を発表した。 |
| 2000年5月 | 中国の天津で第1回「NEADB創立に関する臨時委員会」開催。天津市が本部の誘致を表明 |
| 2000年8月 | 東西センター・韓国開発研究院(KDI)合同コンファレンスでS. Katz・Financing The Infrastructure Investmentを発表。地域のオーナーシップに基づくNEADB創設の必要性が指摘された |
| 2001年4月 | 第10回NEAEF(中国・長春)で、引き続きNEADB構想について議論された。同会議で、ホストの長春市がNEADB本部の誘致を表明した。 |
| 2001年6月 | NEAEFの第2回開発金融専門家会議「北東アジア開発銀行設立に関する円卓会議」が大阪で非公開に開かれ、日本、韓国、米国の専門家及び政府関係者が参加し、インフラ整備における資金需要の再確認、そのためのNEADB設立の必要性が強調された。韓国から国会議員(複数)が参加し、日本のイニシアティブを強く望む意向が表明された。 |
| 2002年3月 | 第11回NEAEF(米アラスカ・アンカレッジ)で開催され、北東アジア開発金融に関してS. カッツ氏が報告した。NEADB創設反対論に対して反論を展開した。 |
| 2002年8月 | KIEP(韓国対外経済研究所)／NEAEF(米ホノルル)で北東アジアの投資協力に関する会議のセッション2として「北東アジアのインフラ開発の必要性」が開催、6報告が行われた。 |
| 2002年9月 | NEAEF「大阪国際会議(日本・大阪市)で開催されNIRA「北東アジアのグランドデザイン」東京財団NEADB研究プロジェクト・チーム「北東アジア開発銀行(NEADB)の創設と日本の対外協力政策―21世紀のモデルを目指して―」が報告、討議が行われた。 |
| 2002年10月 | NEAEF第2回NEADB創設のための特別専門家会議(天津)で日本、韓国、米国、中国などから専門家が参加しこの会議でNEADB構想についてのレビュー、NEADB設立における技術的問題、参加国の政策当局者の意見、NEADB参加国のコンセンサス、NEADB設立における戦略的取り組み、などについて議論が展開された。中国政府関係者が多数参加、 |
| 2003/2/1 | 韓国のソウルでNEADB国際シンポジウムが「東北アジア開発銀行と東北アジア版マーシャルプラン」をテーマに韓国・ハンギョレ新聞と東北亜平和センターの共催で開催された。 |
| 2004年4月 | 第13回NEADBと北東アジア経済会議(新潟)共催し開発金融セッション開設NEADB構想討議さる |
| 2004年9月 | 第13回NEADB(ソウル)で投資需要量推計さる。中国東北振興で振興銀行の新設案提示さる |
| 2005年9月 | 第14回NEAEF(瀋陽)北東アジア開発の未来のグランドデザイン&中国東北部の活性化 |
| 2006年9月 | 第15回NEADB(ハバロフスク)NEADB段階論:北東アジア協力基金、東北アジア銀行(天津)案提示さる |

出所: 東京財団『北東アジア開発銀行(NEADB)の創設と日本の対外協力政策―21世紀のモデルを目指して―』2002年

pp. 29-31 筆・修正し作成

資料2 北東アジア開発銀行構想



The Cooperation of Development Financing in Northeast Asia

~ A design for the development of a bank system through the financial cooperation among governmental organizations and private sectors ~

**Yasuhiro Chiba,
Professor of Economics
Akita Keizaihoka University**

I. Analytical point of view

It has been around 15 years since the argument over the foundation of the Northeast Asian Development Bank (NEADB), as well as the design of financial cooperation in Northeast Asia, was addressed. The construction of financial strategies in Northeast Asia has been a long, pending issue regarding the economic development of the area.

This report will firstly re-examine the intention and establishment proposal of NEADB, and then will propose a financial design for a supportive network in Northeast Asia from a multi-lateral aspect, according to the two recent instances of economic cooperation among Japan, China, and South Korea, which have been carried out by both the governmental organizations and the private sector. Secondly, this paper re-examines the development of financial cooperation in Northeast Asia.

II. Re-examination of the NEADB plan and a trend of regional financial cooperation

The NEADB design is an effective alternative in the construction of the development finance system in Northeast Asia. In recent years, there have been two financial cooperative systems that have involved governmental organizations and private sectors; one is the Northeast Asia Development Financing Council,-NADFC- and the other is the Northeast Asia ECA Summit,-NAECA-. Both are generally estimated as the preceding cases in the NEADB design, as they represent the cooperative system of the governmental banks as well as the private banks of three countries: Japan, China, and South Korea. At the same time, these two organizations are expected to play a part in the co-financial system of the future NEADB project.

III. Fusion of the NEADB design for a financial support network and its vision

One main function of the NEADB system is to provide a development fund. The NEADB design should provide a concrete plan based on financial prospects in order to emphasize the possibility that Northeast Asia is an ideal target in future investment projects. However, there are problems to be solved prior to putting the plan into practice in order to attain the expected result in the development of the finance project. For example, Tumen River Area Development Program reminds us of the "political difficulty" in relation to North Korea that may well be an obstacle in creating a cooperative financial network in Northeast Asia. This section aims to suggest a strategic construction of the development financial network in the area under the following headings: 1. NEADB as politics and political goods; and 2. Strategic construction of a local financial cooperation scheme in northeast Asia.

IV. Proposal

The theoretical outline (Fig. 1) of financial cooperation in Northeast Asia is a road map for financing in the area. Development fund supply is an essential basis for the NEADB establishment. This diagram indicates the mutual cooperation between international financial institutions and each government. A basic step to realize the plan is to provide the financial institution that can mediate each organization. NEADB may well play a catalytic role in the development finance project in Northeast Asia, taking advantage of its capital and trust as a local financial institution. As for a strategy to promote the potential investment demand of Northeast Asia, it is necessary to prepare for the capital inflow from the private sector by maintaining the loan structure and the technical support system based on the direction of international support organizations.

The diagram of the Northeast Asia symbiosis area (Fig. 2) suggests an ideal design for the future based on peace and substantial financial resources. The three basic conditions in the design are to share security for human life, food, and energy sources. The leading members to maintain these conditions are the local residents themselves, and the three theoretical plans that form the frame of this design are: the "Northeast Asia Development Vision", the "Northeast Asian Development Bank Design", and the "Northeast Asia Economy and its Social Development Mechanism", which serve as the mere supports to the main activities carried out by the local residents. This fundamental premise was inspired by the view in the "global environmental symbiosis area." The term "symbiosis area" in this paper stands for the economically cooperative area in Northeast Asia. This presentation proposes an "International Development Design among Japan, China, and South Korea" as a possible action plan. It is necessary to re-examine the economic system in Northeast Asia from the aspect of economic rationality based on cooperative security.

Major References

Campbel Burnham O., Kakazu Hiroshi, Sekiguchi Sueno (1994). *A Northeast Asia Development Bank? An Introductory Analysis* Chiba Yasuhiro(2005) *A Study of Northeast Asia Economics Cooperation: Concept of Development bank, Development Vision and Regional Linkage*, Shinjyusha Tokyo Japan

Chiba Yasuhiro(2005)'Comments on the Japanese Perspective on the Proposed NEADB Based on the Tokyo Foundation Report' Seminar on A Vision for Regional Cooperation in Northeast Asia ,Meeting of the Northeast Asia Economic Forum; Seoul,Korea,7 December 2005

Chiba Yasuhiro(2005). 'The Establishment of the North East Asia Development Bank and Korea role on it' The Conference on *Road to Prosperity and Cooperation: Financial Hub in Northeast Asia* Organized by KAMCO(Korea Asset Management Corporation), KDB(Korea Development Bank), Korea EXIM Bank, KIC(Korea Investment Corporation), KIEP(Korea Institute for International Economic Policy) Seoul,Korea,8 December 2005

- Chiba Yasuhiro(2006).‘The Cooperation of Development Financing in Northeast Asia :Comments on the Northeast Asian Development Bank’ Panel Discussion on the Northeast Asian Development Bank *Proceedings of the15th Meeting of the Northeast Asia Economic Forum*; Khabarovsk ,5-7 September 2006
- Cho, Lee-Jay. (2001) Design of the Northeast Asian Development Bank. NIRA Policy Research (Tokyo), volume 14, no. 2.
- Kakazu Hiroshi (1995). “Regional Cooperation and the Northeast Asia Development Bank.” *Proceedings of the Fifth Meeting of the Northeast Asia Economic Forum*,16-17 February 1995, Niigata, Japan.
- Lee,Hyong-kum (2004) Evaluation on the Debate on NEADB and its Implications for Northeast Asia Development KIEP 2004.12 Proceedings of the13th Meeting of the Northeast Asia Economic Forum; Seoul
- Lee, Jai Min(2006) *Strategic Approach for the Northeast Asian Development Bank Proceedings of the15th Meeting of the Northeast Asia Economic Forum*; Khabarovsk ,5-7 September 2006
- Lee, Jai Woong. (2004.) *Global Finance: A Northeast Asia Approach ,NEADB Update* Seoul: Dasarang..
- Lee, Jai Woong.(2001). *Theory of Global Finance: Twenty-First Century Global Financial Vision of Korea*. Seoul: Dasarang..
- Li ,Gang- Zhe, Li GUO ed(2006) *Regional Financial Cooperation of Northeast Asia in Era 21st- The Theory and Reality. of Challenge to Establish a NEADB* . Northeast Asia Research Institute of Heilondiang university.Published by Social Sciences Academic Press (China)
- Li Gang-Zhe(2004) The Paradigm Change of Regional Cooperation in Northeast Asia and Financial Cooperation by LI Gang-Zhe October 2004 *ECONOMIC RESEARCH CENTER DISCUSSION PAPER No.150* ECONOMIC RESEARCH CENTER SCHOOL OF ECONOMICS NAGOYA UNIVERSITY
- Ma Junlu(2006) Function and Role of the Northeast Asian Development Bank: Current Situation *Proceedings of the15th Meeting of the Northeast Asia Economic Forum*; Khabarovsk ,5-7 September 2006
- Nam Duck-Woo " Why is NEADB needed "www.dwnam.pe.kr
- Nakano Tamotsu (2003) “Change in International Situations Surrounding the Korean Peninsula” *The Journal of Economics Department* Akita keizaihoka University No.37 March 2003
- NIRA ed,(2003)Grand Design For Stability And Prosperity in Northeast Asia, KRI International Corp.Tokyo Japan
- Katz,Stanley(1997)Financing Northeast Asia's Infrastructure Requirements Is a New

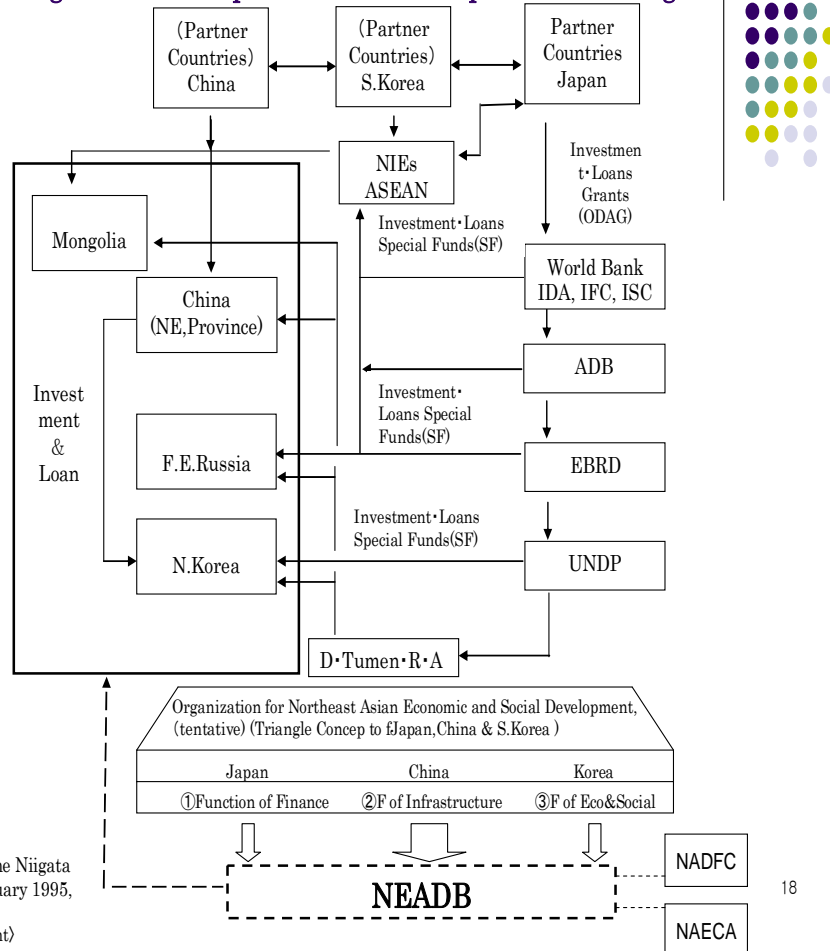
Development Bank Needed? -A Quantitative Assessment- Regional Economic Cooperation in Northeast Asia :*Proceedings of the 7th Meeting of the Northeast Asia Economic Forum*; Ulanbaatar

Katz,S.Stanley (2002) " Financing infrastructure Development and the Northeast Asian Development Bank Concept ":Paper of Working Group presented at the11th Meeting of the Northeast Asia Economic Forum; Anchorage (March 2002)

Tokyo Foundation NEADB Project team (2002),*The Establishment of a Northeast Asian Development Bank (NEADB) and Japan's international Cooperation Policy*" Tokyo Japan

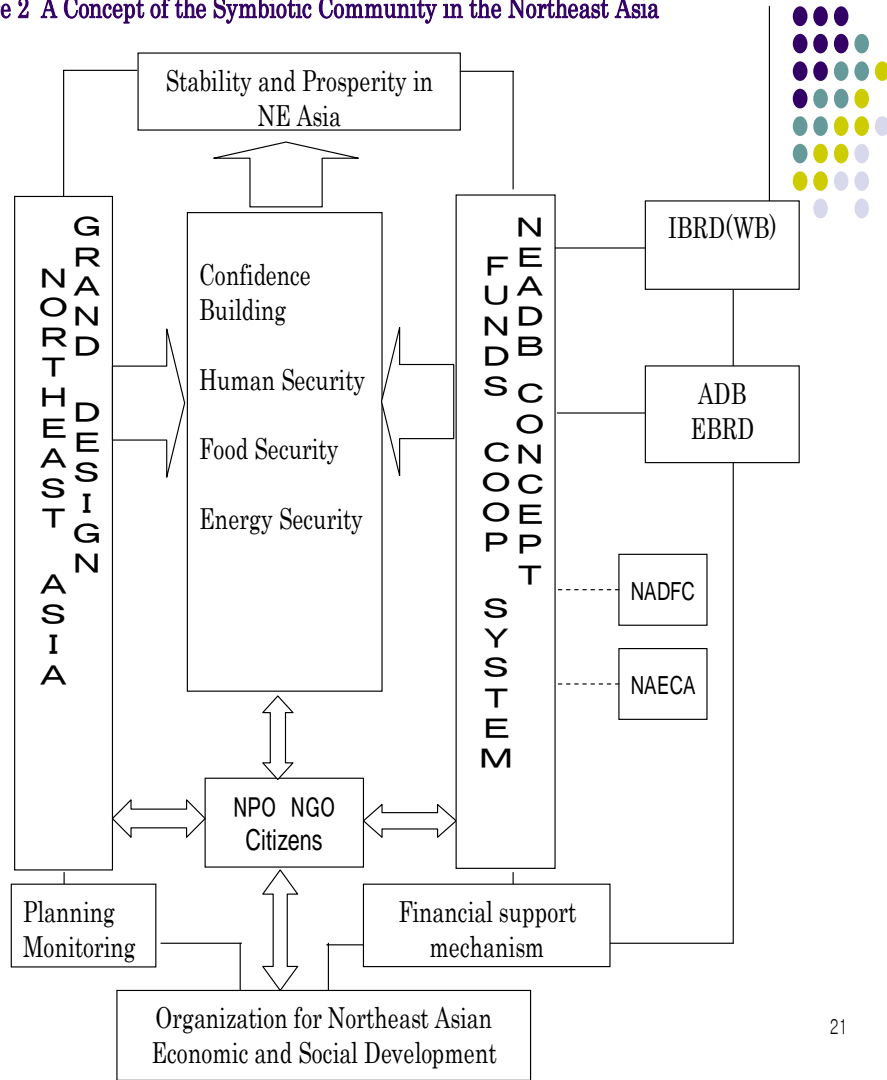
Twu Jaw-Yann(2004) Financing Plans for the Development of Northeast Asia ,The Conference on Development Financing in Northeast Asia ,19 May 2004, Seoul Shill Hotel,Seoul Korea, Session 2

Figure 1 A Concept of Linked Development Financing



Source : Proceedings of the Niigata Conference, 16-17 February 1995, Northeast Asia Economic Forum, p.110 (improvement)

Figure 2 A Concept of the Symbiotic Community in the Northeast Asia



2006/9/2

21

东北亚开发金融合作

—以开发银行构想和政府·民间金融机构的金融合作为中心—

千叶 康弘 ychiba@akeihou-u.ac.jp
(秋田经济法科大学 经济系)

1. 分析视角

与东北亚经济圈构想一样,围绕在东北亚地区建立东北亚开发银行(以下简称 NEADB)的争论也已经过去了 15 年.对东北亚开发而言,构建开发金融框架的问题在很长时间里悬而未决.本报告重新揭示设立 NEADB 构想的意义,推敲设立方案,俯瞰近年来中日韩政府·民间金融机构的两个金融合作框架,力图从多个视角为构建东北亚开发金融支援网献计献策,考察不断深化的东北亚地区开发金融合作方案.

II. NEADB 设立构想的回顾与地区内金融合作的动向

NEADB 构想是构筑东北亚开发金融框架的一个有效方法.其发展历程大概可以如下划分:91 年构想提出,以后可分为 NEADB 构想前史→构想初期→构想发展期→构想成熟期→构想确立期(从基本计划到实施计划)……可以说她是一边调整方向一边向前推进的.针对这个构想,赞成意见和反对意见同时存在,但是对她金融功能的必要性却很少有人提出异议.作为东北亚地区开发的资金筹措框架,除本构想以外,现存的还有两国间 ODA(政府开发援助)的有效利用、已有国际金融机构特别是 ADB 的功能强化以及特定基金的设置、UNDP 图门江开发事务局提出的图门江地区开发基金、东北亚·图门江投资公司构想以及在东北亚新设的国际机构中加入资金合作功能等各种各样的资金筹措框架.

近年来,中日韩政府·民间金融机构的两个金融合作框架得到进一步的发展.一个是“东北亚开发金融协议体(Northeast Asia Development Financing Council)”,另一个是“东北亚 ECA 协议体(Northeast Asia ECA Summit)”前者是日本瑞穗银行与中国开发银行、韩国产业银行组成的日本大型民间银行与中韩代表性政府开发金融机构之间的合作.2004 年 5 月各方对该协议体的设立取得共识,其目的在于发掘东北亚有前景的开发项目,共同提供开发金融支持.另一方面,后者是中日韩政府出口金融机构(Export Credit Agency、ECA)之间的金融合作.2005 年 5 月韩国进出口银行(Korea Exim)与日本国际协力银行(JBIC)、中国进出口银行(China Exim)针对建立“东北亚 ECA 协议体”取得共识.该协议体将为东北亚地区的基础设施建设和社会资本整備等具有高度公共性的开发项目提供共同融资.将来还准备把俄罗斯的对外贸易银行和北朝鲜的朝鲜贸易银行也加入到其中.以上这两个动向的共同之处在于都有中日韩代表性的政府·民间银行参与,这与 NEADB 设立的初期阶段具有共同的特点.今后在发掘地区内开发项目和共同融资方面,希望两个协议体与现存的多国开发金融机构(MDBs)以及 NEADB 加强合作,树立金融合作的典范.

III. 构建开发金融支援网—NEADB 构想与开发蓝图的融合—

NEADB 的主要功能在于提供开发资金.就像没有开发蓝图就不会有投资一样,把投资东北亚可能带来巨大收益这一事实以具体的形式表现出来,是 NEADB 构想与开发蓝图的共同责任.推进东北亚开发整体效益的最大化,构筑开发金融框架,需要解决的问题很多.特别是像图门江计划中表现出来的那样,北朝鲜是构建东北亚开发金融框架的“政治性困难”.这里我们考察一下作为与开发蓝图相结合的开发资金合作体制,在战略上构筑开发金融支援网的问题.

1. 作为政治·政治资本的 NEADB

从 NEAEF 提出 NEADB 构想到东京财团 NEADB 研究组发表 NEADB 方案经历了 10 年时间.通过分析我们明确得出了 NEADB 同时也是优良“政治资本”的结论.同只考虑经济合理性的经济资本不同,她是优先考虑政治理论的政治资本(组织体).我们不得不起在国际政治的实力较量中成立的 ADB 的例子.把 NEADB 看成是符合经济合理性的经济资本(经济组织)时,她是追求东北亚富足的不可缺少的存在.有关于 NEADB 成立的必要性的问题,否定论·谨慎论与肯定论·积极论尽管在手法上有所不同,但在论述如何追求“东北亚富足”这

一点上共同的.除绝对的”否定论”以外,鼓吹设立难度大的主张广泛存在.在这些论点当中,除效率论以外,以”政治上困难”为依据的研究很多.这就需要经济上的理论论述. Katz 的方案(注 1)就从经济层面上展开的理论论述,她提供了具体蓝图和建设基础设施所需资金的分析.可以说她是在展望未来的基础上,提出了在现阶段可能考虑到的全部合理因素.另一方面 TF 方案(注 2)是在 Katz 方案上引入时间轴,插入 3 个原理(市场原理,社会原理,国际原理)并考虑了各个国家情况的方案.把 ADB 的经验作为反面教材从政治层面上来看 NEADB 的时候,就需要将其放在政治框架中考虑. TF 方案揭示了 3 个原理,可以说是争取 6 国共识的”启蒙性方案”,我们期待着她与开发蓝图”东北亚综合设计”(注 3)成为今后推动东北亚经济圈构想两个车轮.对此我提出以下方案.

2. 东北亚地区金融合作框架—开发金融支援网的战略构筑—

NEADB 的主要功能在于提供开发资金. NEADB 作为金融机构,是针对慢性资金不足区域的次地区开发金融机构. NEADB 为了提供开发资金,避开国际金融·资本市场存在的不完全竞争性,具有信用标准化与资金标准化两个功能.信用标准化功能是指去除或减少提供资金的贷出方的危险.资金的标准化功能是指金融机构集合供给方和需求方等各种资金,在资金量上调整双方不均的功能.作为经济资本的 NEADB 将有效发挥金融机构的两个标准化功能,成为解决东北亚地区金融问题的高效组织媒体,削减信用风险,应对多样的基础设施建设所需资金.所以组建开发金融系统之间的相互利用框架非常重要.相互利用框架包括东北亚地区的体制整备(法律·税制等)与 NEADB 设立的一览子框架.在具体的政治一致的前提下,推进 IBRD、ADB、EBRD 的合作,引导各国开发金融机构(JBIC、KDB、CDB)的加入,构建开发金融支援网的战略关系.

上述内容作为推动”东北亚经济社会开发机构”的设立,提供”东北亚联合金融合作概念图”以及”东北亚共生圈概念图”的设计方案而被广泛关注.本论文以”东北亚联合金融合作概念图”和”东北亚共生圈概念图”为中心展开论述.

IV 提案

东北亚联合金融合作概念图(图 1)也是东北亚资金筹措的区域表示图.筹措开发资金是实现东北亚开发蓝图不可缺少的条件,该设计图是论述 NEADB 设立的必要性的依据.从图上可以看出各个国际金融机构与各个国家可以有机的联合在一起.但共同的课题在于没有对国际资金发挥中介功能的金融机构,特别是北朝鲜甚至没有得到世界银行与亚洲开发银行的加盟许可. NEADB 作为次地区的金融机构,必须有效发挥资金与信用两个标准化功能,支持与联合东北亚的开发金融机构,为东北亚开发金融发挥媒介功能.为了应对东北亚潜在的投资需求,必须完善适合民间资本流入的各种环境.在国际机构和各国政府的国际支援体制下,要以各种形式提供建设融资,开展技术支援,做好后援工作.这些论述对明确建立 NEADB 所需的具体事项,探讨推进方法和统一认识都是有帮助的.

另一方面东北亚共生圈概念图(图 2)是创造”和平富足”的东北亚共生圈的概念图,也可以说是东北亚整体采取统一行动构建信赖关系的结构图和努力实现地区目标的理念图.以地区内”东半球亚市民”构成员为支撑,以形成信赖关系为核心,构建把人类从生存危险中解放出来的”人类安全保障”以及相关的”粮食”、”能源”安全保障.结构图外围的”东北亚开发蓝图”、”东北亚开发银行构想”甚至包括作为平台的”东北亚经济社会开发机构”等,也都不过是前者的辅助内容.这个基本的认识来源于”环境共生圈”构想.再也没有比跨越国境的地球环境问题更能让人们采取持续的、为建立信赖关系而积极行动的问题了.这里提到的东北亚”共生圈”是从经济层面上考虑的概念图.这里揭示的”中日韩三角国际开发构想”是把两个概念图变成实际可操作的行动方案的构想.第 1 阶段是中日韩层面,第 2 阶段加入俄罗斯形成中日韩俄 4 国,最终阶段是 6 国探讨互相生”利”的组织体阶段.这些组织作为不向”政治资本”倾斜的政治经济资本,将以”协调性安全保障”为基石,不断探讨经济合理性的问题.

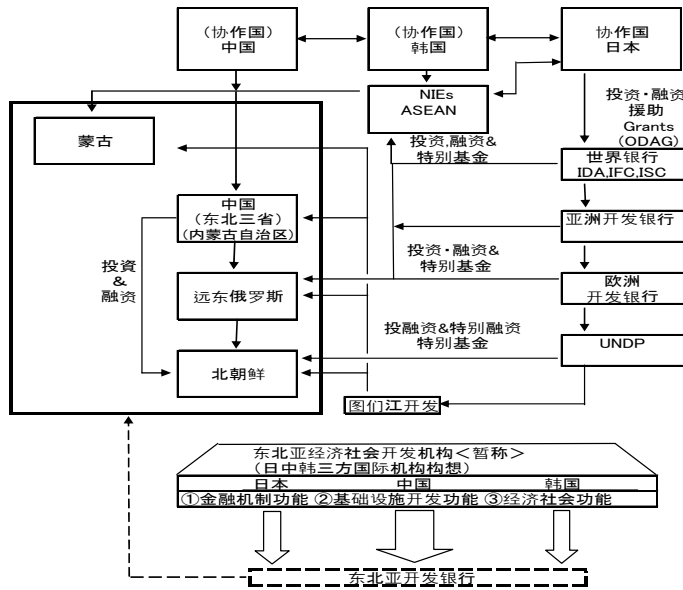
注

- 1) Stanley Katz.(1997)Financing Northeast Asia's Infrastructure Requirements Is a New Development Bank Needed? -A Quantitative Assessment-,Regional Economic Cooperation in Northeast Asia :Proceedings of the 7 th Meeting of the Northeast Asia Economic Forum: Ulanbaatar
- 2) 东京财团 NEADB 研究项目组『东北亚开发银行 (NEADB) 的创立与日本的对外协力政策—争做 21 世纪的模板—』(组长·Y 余照彦国学院大学教授)由 2 部构成.该财团将研究报告书发表在”モノグラフ・シリーズ No.7”上.
- 3) 东北亚·综合设计研究会编著『东北亚综合设计—发展与共生的展望—』(2003.)日本经济评论社

4) 拙著『东北亚经济协力的研究—开银构想·开发蓝图·地区联合—』(2005) 春秋社

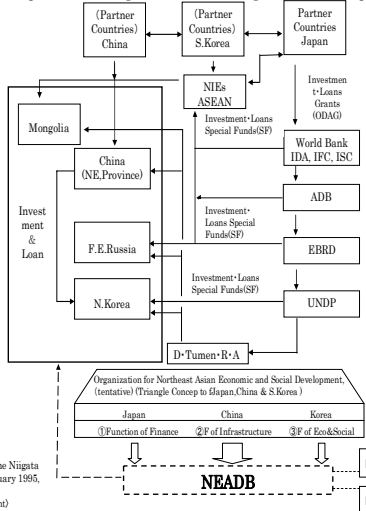
*协助翻译:穆尧芊(北海道大学研究生院经济学研究科博士课程)

图1 东北亚协作中金融合作的概念图



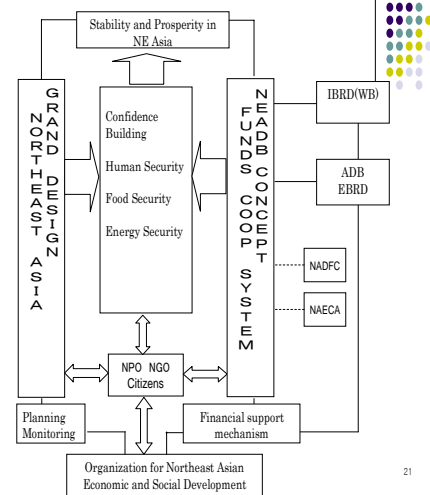
资料: Proceedings of the Niigata Conference, 16-17 February 1995, Northeast Asia Economic Forum, p.110修改做成

Figure 1 A Concept of Linked Development Financing



Source: Proceedings of the Niigata Conference, 16-17 February 1995, Northeast Asia Economic Forum, p.110 (improvement)

Figure 2 A Concept of the Symbiotic Community in the Northeast Asia



2006/9/2

21